

THE OFFICIAL  
**GUNDAM**  
**FACT FILE**

ガンダム・ファクトファイル メカニックイラストレーションズ

**MECHANIC  
ILLUSTRATIONS**

Vol. **1**



# GUNDAM

## FACT FILE

ガンダム・ファクトファイル メカニックイラストレーションズ

# MECHANIC ILLUSTRATIONS

Vol. **1**

週刊『ガンダム・ファクトファイル』の表紙を飾った  
MS & MAが装いも新たに集結!

スーツ モビルアーマー



# 大迫力画集・第一弾!

Vol.1には名場面CGや  
キャラクターデザイナーによる  
イラストも掲載!



### Vol.1 掲載メカニック登場作品

機動戦士ガンダム // 機動戦士ガンダム 第08MS小隊 //  
機動戦士ガンダム0080ポケットの中の戦争 //  
機動戦士ガンダム MS IGLOO //  
機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY //  
機動武闘伝Gガンダム // 新機動戦記ガンダムW //  
機動新世紀ガンダムX // ヴガンダム

 **DeAGOSTINI**



THE OFFICIAL  
**GUNDAM**  
**FACT FILE**

ガンダム・ファクトファイル メカニックイラストレーションズ

**MECHANIC  
ILLUSTRATIONS**

Vol. **1**



THE OFFICIAL  
**GUNDAM**  
FACT FILE  
MECHANIC  
ILLUSTRATIONS



THE OFFICIAL  
**GUNDAM**  
FACT FILE  
MECHANIC  
ILLUSTRATIONS



**2冊でコンプリート!**



ガンダム・ファクトファイル  
メカニックイラストレーションズ

Vol. **02**

**掲載メカニック登場作品**

機動戦士Zガンダム / 機動戦士ガンダムZZ / 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア /  
機動戦士ガンダムF91 / 機動戦士Vガンダム / GUNDAM EVOLVE /  
機動戦士ガンダムSEED / 機動戦士ガンダムSEED DESTINY /  
機動戦士ガンダムSEED C.E.73 STARGAZER

**絶賛! 同時発売中!!**

定価: 本体 3,790円 + 税



THE OFFICIAL  
**GUNDAM**  
FACT FILE  
MECHANIC  
ILLUSTRATIONS



GUNDAM  
F A C T  
F I L E  
MECHANIC ILLUSTRATIONS

---

Vol. 01



## 『機動戦士ガンダム』

- p.008 RX-75 ガンタンク
- p.010 RX-77-2 ガンキャノン
- p.012 RX-78-2 ガンダム
- p.014 RX-78-2 ガンダム (ラストシューティング)
- p.016 G アーマー
- p.018 RGM-79 ジム
- p.020 MS-05B ザクI
- p.022 MS-06F ザクII F 型
- p.024 MS-06S ザクII S 型 (シャア専用ザク)
- p.026 MS-07B グフ
- p.028 MS-09 ドム
- p.030 MSM-03 ゴッグ
- p.032 MSM-04 アッガイ
- p.034 MSM-07S シャア専用ズゴック
- p.036 YMS-15 ギャン
- p.038 YMS-14 シャア専用ゲルググ
- p.040 MSM-02 ジオング
- p.042 MA-05 ビグロ
- p.044 MA-04X ザクレロ
- p.046 MAX-03 アッザム
- p.048 MA-08 ビグ・ザム
- p.050 MAN-03 ブラウ・ブロ
- p.052 MAN-08 エルメス

## 『機動戦士ガンダム 第08MS小隊』

- p.054 RX-79[G] 陸戦型ガンダム
- p.056 RX-79[G]Ez-8 ガンダム Ez-8
- p.058 MS-07B-3 グフ・カスタム
- p.060 アプサラスⅢ

## 『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』

- p.062 RX-78NT-1 アレックス
- p.064 MS-06FZ ザクII改
- p.066 MS-18E ケンプファー

## 『機動戦士ガンダム MS IGLOO - 1年戦争秘録 -』

## 『機動戦士ガンダム MS IGLOO - 黙示録0079 -』

- p.068 YMT-05 ヒルドルブ
- p.070 EMS-10 ツダ
- p.072 MSM-07Di ゼーゴック
- p.074 MP-02A オッゴ
- p.076 MA-05Ad ビグ・ラング

## 『機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY』

- p.078 RX-78GP01 ガンダム試作1号機
- p.080 RX-78GP01Fb ガンダム試作1号機フルバーニアン
- p.082 RX-78GP02A ガンダム試作2号機
- p.084 RX-78GP03 ガンダム試作3号機
- p.086 RGM-79N ジム・カスタム
- p.088 YMS-16 ザメル
- p.090 AMA-X2 ノイエ・ジール
- p.092 AGX-04 ガーベラ・テトラ
- p.094 MA-06 ヴァル・ヴァロ

## 『機動武闘伝Gガンダム』

- p.098 GF13-017NJ シャイニングガンダム
- p.100 GF13-071NJⅡ ゴッドガンダム
- p.102 GF13-006NA ガンダムマックスター
- p.104 GF13-011NC ドラゴンガンダム
- p.106 GF13-009NF ガンダムローズ



- p.108 GF13-013NR ボルトガンダム
- p.110 GF13-021NG ガンダムシュピーゲル
- p.112 GF13-001NH II マスターガンダム

## 『新機動戦記ガンダム W』

- p.114 XXXG-00W0 ウイングガンダムゼロ
- p.116 XXXG-01D2 ガンダムデスサイズヘル
- p.118 XXXG-01H2 ガンダムヘビーアームズ改
- p.120 XXXG-01SR2 ガンダムサンドロック改
- p.122 XXXG-01S2 アルトロンガンダム
- p.124 OZ-13MS ガンダムエピオン

## 『機動新世紀ガンダム X』

- p.126 GX-9900 ガンダム X
- p.128 GX-9901-DX ガンダム DX
- p.130 NRX-0013-CB ガンダムヴァサーゴ チェストブレイク
- p.132 NRX-0015-HC ガンダムアッシュタロン ハーミットクラブ

## 『V ガンダム』

- p.134 SYSTEM- V 99 Vガンダム (表紙 ver)
- p.136 SYSTEM- V 99 Vガンダム (観音 ver)
- p.138 MRC-F20 スモーク
- p.140 CONCEPT-X 6-1-2 ターン X

## p.142 「週刊 サンライズアニメーションデータファイル」

ガンダムプレミアムファイル

- p.144 アムロ・レイ 安彦良和
- p.145 シャア・アズナブル 安彦良和
- p.146 クリス & バーニィ 美樹本晴彦

- p.147 アナベル・ガトー 川元利浩
- p.148 カミーユ・ビダン 北爪宏幸
- p.149 クワトロ・バジーナ 北爪宏幸
- p.150 キラ & アスラン (機動戦士ガンダム SEED) 平井久司
- p.151 キラ & アスラン (機動戦士ガンダム SEED DESTINY) 平井久司

- p.152 大気圏突入
- p.154 迫撃! トリプル・ドム
- p.156 コンスコン強襲
- p.158 ポケットの中の戦争
- p.160 終わりなき追撃
- p.162 駆け抜ける嵐
- p.164 黒いガンダム
- p.166 キリマンジャロの嵐
- p.168 宇宙を駆ける
- p.170 戦士、再び
- p.172 アクシズの戦い
- p.174 ラフレシア
- p.176 永遠への帰郷
- p.178 サイレントラン
- p.180 テキサスの攻防
- p.182 索引



# GUNDAM FACT FILE VOL.01 COVER & BINDER

【ガンダムファクトファイル創刊号／バインダー】



初出：週刊ガンダム・ファクトファイル創刊号（表紙／バインダー） 登場作品『機動戦士ガンダム』他 イラスト：川元利浩、逢坂浩司  
Illustration by Toshihiro Kawamoto / Hiroshi Ousaka







GUNDAM FACT FILE MECHANIC ILLUSTRATIONS

# UNIVERSAL 0079

---

「収録作品」『機動戦士ガンダム』『機動戦士ガンダム第08  
『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』『機

---



Vol. 01

# CENTURY 0083

MS 小隊』『機動戦士ガンダム MS IGLOO』  
機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY』







# R X - 7 5 G U N T A N K

【ガンタンク／地球連邦軍】

本機は、ジオン公国軍のMSに対抗すべく地球連邦軍が発動した「RX計画」によって開発された機体であり、連邦軍最初のMSと言われる。キャタピラによる移動、マニピュレーター代わりに装備された射撃兵装、両肩の長距離砲など、およそMSとは掛け離れたシルエットを有するが、これは連邦軍開発陣の試行錯誤と機体開発の過渡期に本機が誕生したことを示すものであろう。そのため、一部には性能を疑問視する向きもあったが、ホワイトベース隊に編入された本機はほかのRXシリーズとの連携で高い戦果を挙げた。



①②③④全長とほぼ同等の砲身を持ち、射程と命中精度に優れる120mm低反動キャノン砲は最大射程240kmを誇る。両腕部に給弾システムごと内装された。4連装ポップ・ミサイルは射程こそ20kmと短いものの、最大120発まで連射可能である。⑤当初は火器管制と操縦を別々に担うよう分割されていたコクピットだが、後に頭部コクピットに一元化された。『機動戦士ガンダム』

【Spec】 頭頂高：15.0m（全高：19.0m） 本体重量：56.0t ジェネレーター出力：878kW スラスター推力：88,000kg 装甲材質：ルナ・チタニウム合金 武装：120mm低反動キャノン砲×2 / 4連装ポップ・ミサイル×2 搭乗者：ハヤト・コバヤシ／リュウ・ホセイ他

Illustration by Morifumi Naka / Color by Takako Suzuki / Special effect by Masayuki Hiraoka







# R X - 7 7 - 2 G U N C A N N O N

【ガンキャノン／地球連邦軍】

一年戦争の緒戦で大敗を喫した地球連邦軍は、反撃を期してMSの開発・運用計画「V作戦」を発動した。本機はその成果として完成した試作MSである。中距離支援を目的としたこのMSは、同じく「V作戦」によって生み出されたRX-75、RX-78とともに、連邦軍のMS戦術を模索する雛型として活用される——はずであった。しかし、トライアル直後にジオン公国軍の奇襲を受け、素人の集団であるホワイトベース隊とともに波乱の船出を迎えることとなる。反撃の狼煙となるべく生まれたこの機体は、予期せぬ形で実戦に投入されたのだった。



①②③④両肩に装備された240mm低反動キャノンは、当時のMSの固定兵装としては最高クラスの火力を有しつつもザク・マシンガンに匹敵する連射性能を備える優れた火器であった。専用装備なるビーム・ライフルはRX-78ガンダムのもより大型で、連射こそできないが威力を誇る。⑤両肩のキャノン砲は12連装ロケット弾ポッドにも換装可能だったといわれている。しかし、この装備がホワイトベース隊で使用された記録はない。『機動戦士ガンダム』

〔Spec〕 総高：17.5m 本体重量：50.0t ジェネレーター出力：1,380kW スラスター推力：51,800kg 装甲材質：ルナ・チタニウム合金 武装：専用ビーム・ライフル／キャノン砲×2／頭部バルカン砲×2／手榴弾 搭乗者：カイ・シデン／ハヤト・コバヤシ

Illustration by Morifumi Naka / Color by Takako Suzuki / Special effect by Kumiko Taniguchi







# R X - 7 8 - 2 G U N D A M

【ガンダム／地球連邦軍】

ジオン公国軍の新兵器 MS に完敗した地球連邦軍が「V 作戦」で完成させた試作 MS。白兵戦に特化した機体で、その後の連邦製汎用 MS の礎となった。当時の最高技術を投入された万能機で、艦艇を一撃で撃沈するビーム・ライフルやビーム・サーベルによる絶大な火力、ザクⅡの武装では破壊困難なルナ・チタニウム合金製装甲による防御力などは当時の戦場では絶対的な装備であった。さらにコア・ブロック・システムや、単独での大気圏突入能力、学習型コンピュータ等を搭載しており、その性能は戦闘兵器の領域を超えているといっても過言ではない。



①②ガンダムの主兵器であるビーム・ライフル。当時の「戦艦の主砲並み」の威力を誇り、フルチャージで15回（異説12回）もの発射が可能であった。ビーム兵器のみならず、実体弾を使用するハイパー・バズーカなど、対MS戦を主眼においた汎用性の高い武装を揃えている。③④⑤ガンダムは試作機ながら絶大な性能を発揮、ジオン公国軍の誇るエースパイロットを次々と撃破し、その戦果の大きさが戦局にも影響を及ぼすほどであった。『機動戦士ガンダム』

〔Spec〕 頭頂高：18.0m 本体重量：43.4t ジェネレーター出力：1,380kW スラスター推力：55,500kg 装甲材質：ルナ・チタニウム合金 武装：ガンダム・シールド／頭部バルカン砲×2／ビーム・ライフル／ビーム・サーベル×2（ビーム・ジャベリン兼用）／ハイパー・バズーカ他 搭乗者：アムロ・レイ

Illustration by Shino, Masanori / Color by Hiromi Miyawaki / Special effect by Takayuki Furukawa







# R X - 7 8 - 2 G U N D A M

【ガンダム／地球連邦軍】

一年戦争においてジオン公国軍パイロットをもっとも恐れさせた MS が、RX-78-2 ガンダムであろう。サイド7ではじめて実戦を経験してからア・バオア・クー攻防戦で大破するまで、本機は圧倒的な火力と耐弾性を武器に次々と公国軍戦力を打破し、地球連邦軍の勝利に大きく貢献した。そして一年戦争の激戦のなかに失われたのちもその名を後世に残し、MS 開発史に多大な影響を与えた。「白い MS」の伝説は戦場に受け継がれていったのである。



①②③搭乗者であるアムロ・レイの常入離れした反応速度に対応しきれなくなったガンダムは、急速モスク・ハン博士の提唱する新技術「マグネット・コーティング」を施された。ジオン公国軍は一年戦争末期にかけてニュータイプ能力を持つパイロットと専用モビルアーマーを次々と戦線に投入するも、アムロ・レイの駆るガンダムとホワイトベース隊はことごとくそれを退けている。④⑤最終決戦となったア・バオア・クー攻防戦において、ガンダムはジオングとの戦闘で大破。機体はアムロ・レイが脱出の際に破壊している。『機動戦士ガンダム』

〔Spec〕 頭頂高：18.0m 本体重量：43.4t ジェネレーター出力：1,380kW スラスター推力：55,500kg 装甲材質：ルナ・チタニウム合金 兵装：ガンダム・シールド／胸部バズーカ砲×2／ビーム・ライフル／ビーム・サーベル×2（ビーム・ジャベリン兼用）／ハイパー・バズーカ 他 搭乗者：アムロ・レイ

Illustration by Atsushi Shigeta / Color & Special effect by Yuki



# G A R M O R

【G アーマー／地球連邦軍】

MS そのものの汎用性は、一年戦争緒戦におけるジオン公国軍の戦果によって充分に実証された。この「汎用性」を大樹の幹とすれば、次に模索されるのは枝葉にあたる「拡張性」となる。地球連邦軍が開発した「G パーツ」は、拡張性を考慮して開発された MS サポート・システムである。これは RX-78-2 ガンダムとの連携によって様々な形態を取れるのが特徴であり、その形態のひとつが「G アーマー」と呼ばれる重爆撃機だ。「MS にパーツを付与することで強化を図る」というこの試みは、実戦の中で真価を問われることとなった。そして、後年にこのコンセプトを受け継いだ機体が登場したという事実は、本機の目指した道が正しかったことの証明でもあるだろう。



①②③ガンダムとのドッキング方法により、それぞれ G ファイター、G スカイ、G ブルというように呼び名も機能も変化する。G アーマーはガンダムを運搬するためのいわばフル装備状態であった。④空中での分離・ドッキングも可能だったが、所要時間が約 15 秒と長く、その間は無防備になるため大きな危険を伴った。⑤ G パーツに設置された操縦用のコクピット。索敵や火器管制をドッキングしている MS 側で分担することも可能だった。『機動戦士ガンダム』

[Spec] 全長：不明 本体重量：不明 ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：不明 武装：2 連装大口径ビーム・キャノン／機種ミサイル×2／後部ミサイル 搭乗者：セイラ・マス／スレッガー・ロウ

Illustration by Atsushi Shigeta / Color and Special effect by Yuki











# R G M - 7 9 G M

【ジム／地球連邦軍】

一年戦争期、ジオン公国軍のMSに対抗するために連邦軍が推進した「V作戦」——その結実として誕生した汎用主力MSが、RGM-79 ジムである。RX-78 ガンダムの基礎設計と運用データを引き継いだ本機は、高い汎用性の実現を目指すと同時に、量産機には不必要な機能を廃するというコスト・ダウンが図られた。その結果、良好な生産性によって連邦軍の勝利を掴み取った本機は、のちの主力MS開発の礎を築き、後世にその血統を残したのである。



①②ガンダムと同様にビーム兵器を搭載する。小型化され、射程は短くなったもののビーム・スプレーガンとビーム・サーベルを装備。他にもガンダムと同様の武装が運用可能であった。  
③④ガンダムの廉価版という評価が目につくジムだが、実際には高い生産性を実現しつつ、ジオン公国軍のザクIIを上回る高い性能を維持した名機であった。⑤コクピットはコア・ブロック・システムを廃した簡略型だが、内部構造はガンダムに準じていた。『機動戦士ガンダム』

〔Spec〕 全高：18.0m 本体重量：41.2t ジェネレーター出力：1,250kW スラスター推力：55,500kg 装甲材質：チタニウム合金 武装：ビーム・スプレーガン／ビーム・サーベル／頭部バレルガン×2／シールド 搭乗者：シン／ジャック・ペアー 他

Illustration by Atsushi Shigeta / Color and Special effect by Yuki







# M S - 0 5 B Z A K U I

【ザクI / ジオン公国軍】

ジオン公国軍が開発した、人類史上初の実戦用MS。人型兵器のイメージを確立した機体であり、公国軍製MSの原型機とも言える。携行兵装を扱うための腕、歩行とAMBAC（アンバック）肢としての脚、宇宙空間を高速移動するための推進機関——汎用兵器としての条件をすべて満たした本機は、一年戦争に先駆けて量産され、主力MSに必要なノウハウを蓄積した。対する地球連邦軍は本機の性能を軽視したために、手痛い一撃を喫することになったのである。



①②ザクIの初陣となった一週間の戦争において、スペース・コロニーへの攻撃に核兵器やBC兵器などが用いられた。モビルスーツの登場は、世界の兵器体系を一変させたという。③④一年戦争も後半になると旧式化が否めず、最前線からも遠い補給部隊などの後方へと配備されていた。⑤地球進攻作戦で地上に展開していた部隊の中には、マルチ・ブレード・アンテナを装備した隊長機や、現地改修型のザクIが存在していた。『機動戦士ガンダム』

【Spec】 頭頂高：17.5m 本体重量：50.3t ジェネレーター出力：899kW スラスター推力：40,700kg 装甲材質：超硬スチール合金 武装：ザク・マシンガン/ザク・バズーカ/ヒート・ホーク/ガス弾発射器 他  
搭乗者：ガダム 他

Illustration by Kouji Sugiura / Color and Special effect by Kouichi Iwanaga







# M S - 0 6 F Z A K U II

【ザクII / ジオン公国軍】

ザクIに続いてジオン公国軍が開発した量産 MS。動力パイプの外装化により冷却性能や駆動効率が向上したほか、出力系の強化が成されるなど全般的な性能向上が図られた。中でも F 型と呼ばれる MS-06F は、汎用機動歩兵としての性能を追及した決定版で、ザク系列のみならず MS の代名詞的存在となっている。一年戦争緒戦において連邦艦隊を壊滅に追い込むなど、当初圧倒的な戦闘能力を発揮したが、長引く戦争の中、次第にロートル化していった。それでも良好な操縦性や汎用性が評価され、公国軍の主力 MS として活躍。戦後も各勢力で使用された。



①②③ザクIIの基本装備となる120mmザク・マシンガン。連射性も高く破壊力は高かったが、ガンダムのルナ・チタニウム製の装甲には歯が立たなかった。その一方で、280mmロケット弾を射出するザク・バズーカはガンダムにも有効な数少ない武器であった。④ザクIIは基本型となるF型の他、地上用のJ型など数多くのバリエーションを生み出した。⑤ジオン公国軍初期MSの共通コクピット。左胸にエアロック、右胸にコクピットが配された。『機動戦士ガンダム』

[Spec] 全高：17.5m 本体重量：56.2t ジェネレーター出力：976kW スラスター推力：43,300kg 装甲材質：超硬スチール合金 武装：ザク・マシンガン/ザク・バズーカ/ヒート・ホーク 他 搭乗者：デニム / ジーン / スレンダー 他

Illustration by Shino, Masanori / Color by Hiroshi Miyawaki / Special effect by Takayuki Furukawa







# MS - 06S ZAKU II Char's Custom

【シャア専用ザク／ジオン公国軍】

赤く彩られたこのザクIIは誰もが知っている「赤い彗星」シャア・アズナブルの乗機である。一年戦争からU.C.0093まで、常に最前線にあり続けた彼の名声を不動にした機体として知られている。この機体を有名にしているのは「通常の3倍のスピード」を出したと言われる伝説的エピソードがつとに知られているからだろう。地球連邦軍の公式記録にもその事例が記録されているが、どうやって彼がそのスピードを出したのかについては判明していない。いまだに多くの人が諸説を發表していることから、この機体の人気のほどが窺える。



①②③「赤い彗星」の異名の由来ともなった一撃離脱戦法。最大戦速で突撃するため、地球連邦軍将兵からは「通常のザクの3倍のスピード」と恐れられた。さらに、正確無比な射撃、変化自在の格闘技術というエースパイロットの名に恥じぬ戦い方を見せた。④⑤コクピットはザクII F型と共通である。シャアは宇宙空間での戦闘時にもノーマルスーツを着用しなかったが、これは必ず無傷で帰還するという自信の表れでもあったという。『機動戦士ガンダム』

【Spec】 頭頂高：17.5m 本体重量：56.2t ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：超硬スチール合金 武装：ザク・マシンガン、ザク・バズーカ、ノビート・ホーク 他 搭乗者：シャア・アズナブル

Illustration by Shino, Masanori / Color & Special effect by Hirofumi Yagi(Asahi Production)



# M S - 0 7 B G O U F

【グフ／ジオン公国軍】

地球連邦軍のMS投入を警戒したジオン公国軍が開発した、格闘重視の陸戦用MS。ザクⅡをベースに徹底した陸戦仕様化と、新設計の接近戦用兵器の内装が行なわれている。結果、ザクⅡと比較して汎用性は低下したが、機体の総合的ポテンシャルと格闘戦能力は数段向上している。グフの最大の特徴は、右前腕部に固定装備された電磁鞭、ヒート・ロッドで命中時に高圧電流を浴びせ、目標の電気系統やパイロットに深刻なダメージを与える攻撃方法。戦術機動力などの面でMS-09ドムに劣ったため、主力MSにはなれなかった。



①②③対MS格闘戦用に特化した性能を持つグフは、装備する武器にもその設計思想が反映されていた。電撃鞭ともいうべきヒート・ロッドは高圧電流によって電子機器やパイロット自身へダメージを与える。またヒート剣は強固なガンダム・シールドすら一刀両断するほどの威力を誇り、高い運動性能とともに連邦軍MSにとって脅威となった。④⑤コクピットはザクⅡなどと同様のものだが、その位置は胸部から腹部へと移動されている。『機動戦士ガンダム』

[Spec] 頭頂高：18.2m 本体重量：58.5t ジェネレーター出力：1,034kW スラスター推力：40,700kg 装甲材質：超硬スチール合金 武装：ヒート・ロッド／5連装フィンガー・バルカン砲／ヒート剣／ザク・マシンガン／ジャイアント・バズ他 搭乗者：ランバ・ラル他

Illustration by Morifumi Naka / Color by Takako Suzuki / Special effect by Kumiko Taniguchi











# M S - 0 9 D O M

【ドム／ジオン公国軍】

一撃離脱戦法を得意とする、ジオン公国軍の陸戦用 MS。360mm もの大口徑を誇るジャイアント・バズ、シールド無しでも高い防弾性を実現した重装甲、全備重量 80t を超える大重量ボディにホバー走行能力を与えた熱核ジェット・エンジンなどによって、攻撃力、防御力、機動力の三要素を、高い次元で持ち合わせた機体となった。同時期に開発されたグフと比較して、運動性と接近戦能力で劣っていたものの、高い火力と防御力、そして何よりも高速展開を可能にする高い機動性と走破能力が評価され、地上戦用の主力 MS として採用された。



①②熱核ジェット・エンジンによるホバー走行を採用した本機は、地上においても高速による一撃離脱戦法を得意とした。③主武装となるジャイアント・バズは一撃離脱戦法での攻撃力を重視したため 360mm という大口徑砲となった。④ザク系から一新されたコクピット。⑤後に宇宙用に改修され、MS-09R リック・ドムとして配備された。次期主力 MS である MS-14 ゲルググの配備が遅れたため、その代替機として広く活躍している。『機動戦士ガンダム』

〔Spec〕 全高：18.6m 本体重量：62.6t (MS-09R：43.8t) ジェネレーター出力：1,269kW (MS-09R：1,199kW) スラスター推力：58,200kg (MS-09R：53,000kg) 装甲材質：超硬スチール合金 武装：ジャイアント・バズ／ヒート・サーベル／胸部拡散ビーム砲 搭乗者：黒い三連星  
Illustration by Atsushi Shigeta / Color & Special effect by Yuki







# M S M - 0 3 G O G G

【ゴッグ／ジオン公国軍】

ジオン公国軍がはじめて量産に成功した水陸両用 MS、それが MSM-03 ゴッグである。本機は卵型のフォルムや伸縮式の腕部などの特徴的な機体設計を採用することで、水陸両用 MS としての実用レベルを満たした。さらに大出力ジェネレーターを搭載することで内装式メガ粒子砲の稼動を可能とし、従来機とは一線を画した戦闘力を獲得した。本機によって確立された水陸両用 MS という兵器分野は、宇宙世紀の海洋戦略を塗り替えたのである。



①②腹部に集約された、本機の主武装となるメガ粒子砲と魚雷発射管。③堅牢な装甲とパワーによって機動性の低下を補っていた。ヘルファスト基地への奇襲攻撃ではガンダムのハイパー・ハンマーを受け止めるほどのパワーを見せている。④コクピットはジオン公国軍に普及していた改良型を流用する。⑤陸上での純重さとは裏腹に、水中での機動性に優れ、最大で75ノット(異説70ノット)という高速航行が可能となっている。『機動戦士ガンダム』

[Spec] 頭頂高：18.3m 本体重量：82.4t ジェネレーター出力：1,740kW スラスター推力：121,000kg 装甲材質：チタン・セラミック複合材 武装：腹部メガ粒子砲×2 / 魚雷発射管×2 / フリージーヤード / アイアン・ネイル 搭乗者：コーカ・ラサノマーシー他

Illustration by Atsushi Shigeta / Color by Yuki







# M S M - 0 4 A C G U Y

【アッガイ／ジオン公国軍】

一年戦争のジオン公国軍は水陸両用 MS の充実によって海洋戦略の優位を保とうとした。その過程で開発された水陸両用 MS のひとつが MSM-04 アッガイであり、本機は物量を揃えるために生産性を重視した設計がなされている。MS-06J ザクⅡJ 型のパーツを流用することで低コスト化を実現した機体は、それに加えて、隠密性というアドバンテージを手に入れることとなった。そしてその能力は、偵察任務や潜入作戦などで発揮されたのである。



①②装甲表面に電波吸着剤による加工を行い、もともと少ない排熱量を逆手にとって隠密性に優れた機体として運用された。諜報活動や潜入任務などに投入されることが多い。③④右腕に内蔵されたメガ粒子砲はユニットごと交換可能で、機体によっては両腕をミサイル・ランチャーに換装しているものもあった。⑤ MS には珍しい複座式のコクピットを採用するが、基本的な内部機構は MSM-06 ズゴックのものを転用したとされる。『機動戦士ガンダム』

[Spec] 頭頂高：19.2m 本体重量：91.6t ジェネレーター出力：1,870kW スラスター推力：109,600kg 装甲材質：超硬スチール合金 武装：頭部バレルガン×4 / 胸部6連装ミサイル・ランチャー / メガ粒子砲 / アイアン・ネイル 搭乗者：アカハナ 他

Illustration & Special effect by Shino,Masanori / Color by Hiromi Miyawaki







# MSM-07S Z'GOK Char's Custom

【シャア専用ズゴック／ジオン公国軍】

「赤い彗星」の異名を持つジオン公国軍のエースパイロット、シャア・アズナブル。この MSM-07S ズゴックは一年戦時における彼の2番目の乗機として知られる。マッド・アングラー隊の指揮官に着任した彼は、これまで謎とされていた地球連邦軍の本拠地であるジャブローの正確な所在を特定。同機をもって、ジャブロー基地への侵入を果たし、ジャブロー攻略戦の端緒を開いた。しばらく戦場から遠ざかっていたシャアであったが、その卓越した操縦技術はまったく衰えておらず、真紅の機体は連邦将兵に赤い彗星の復活を知らしめることとなった。



①②ジオン公国軍によるジャブロー攻略戦に参加したシャア専用ズゴック。S型仕様とされるが、通常型となるMSM-07との性能差はほとんどないと言われる。水陸両用機ながら格闘戦に優れた性能を発揮し、ガンダムを追い詰めた。③アイアン・ネイルはMSの装甲をも貫く強度を持ち、地球連邦軍のジムを一撃で破壊している。④⑤コクピットハッチそのものが気密扉となっており、搭乗の際にはハッチが昇降装置としても機能する。『機動戦士ガンダム』

〔Spec〕 全高：18.4m 本体重量：65.1t ジェネレーター出力：2,480kW スラスター推力：83,000kg 装甲材質：チタン・セラミック複合材 武装：6連装240mmロケットランチャー／腕部メガ粒子砲×2／アイアン・ネイル 搭乗者：シャア・アズナブル

Illustration by Morifumi Naka / Color by Takako Suzuki / Special effect by Masayuki Hiraoka







# Y M S - 1 5 G Y A N

【ギャン/ジオン公国軍】

一年戦争末期、ジオン公国軍によって開発された試作MS。対MS白兵戦に重きを置いた設計で、ビーム・サーベルと武器内蔵式シールドという専用装備によって高い近接戦能力を獲得した。MS-14 ゲルググと次期主力MSの座を競ったが、総力戦が想定された戦争末期の戦況は汎用能力の低いMSを必要としなかった。そのため、本機はMS-14に主力機の座を譲り、試作機の1機が実戦投入されるに留まったのである。そして、試作機はマ・クベ大佐の手に渡り、幾度となく彼に苦汁を舐めさせたRX-78-2 ガンダムとの対決の場へと向かうこととなった。



①②③ビーム・サーベルによる白兵戦を主眼にして開発されただけに、その格闘戦能力は際立って高かった。④⑤シールドに内蔵したニードル・ミサイルは威嚇・牽制などに使われる程度で、威力そのものは低かったと言われる。また同じくシールドに内蔵されるハイド・ポンプは本機専用の武装ではなく、ジオン公国軍で広く使われる浮遊機雷を流用したものであった。威力は低いものの、敵機の動きを制限するためには有効であった。『機動戦士ガンダム』

【Spec】 全高：19.9m 本体重量：52.7t ジェネレーター出力：1,360kW スラスター推力：56,200kg 装甲材質：超硬スチール合金 武装：専用ビーム・サーベル/専用シールド/ニードル・ミサイル/ハイド・ポンプ 搭乗者：マ・クベ

Illustration by Atsushi Shigeta / Color&Special effect by Yuki







# Y M S - 1 4 G E L G O O G Char's Custom

【シャア専用ゲルググ／ジオン公国軍】

ジオン公国軍が開発した次期主力 MS、MS-14 ゲルググの先行量産機。公国軍機として初めてビーム・ライフルと格闘用ビーム兵器（ビーム・ナギナタ）を装備。さらに耐ビーム・コーティング処理が施されたシールドや MS-09R リック・ドムから技術転用した大推力スラスターを搭載することで、RX-78 ガンダムに匹敵する性能を獲得した。先行量産機は 25 機のみが生産されたが、中でも有名なのがシャア・アズナブル大佐に引き渡された本機である。パーソナルカラーに塗られた本機はアムロ・レイ少尉と数回に渡る戦闘を行ったと記録されている。



①② MS-14 ゲルググの先行量産機が、シャア・アズナブルをはじめとする一部のエースパイロットに支給されたと言われる。③ビーム・ライフルとビーム・ナギナタなど、ジオン公国軍 MS としては初となるビーム兵器を装備する。④ドム系に近い構造の下半身により、スラスター類を機体内部に集約。ランドセルを持たずに高い機動力を発揮した。⑤量産機が配備されるも、パイロット不足などの原因で戦局を変えるまでには至らなかった。『機動戦士ガンダム』

〔Spec〕 頭頂高：19.2m 本体重量：53.5t ジェネレーター出力：1,440kW スラスター推力：79,900kg 装甲材質：超硬スチール合金 武装：ビーム・ライフル／ビーム・ナギナタ／シールド 搭乗者：シャア・アズナブル

Illustration by Atsushi Shigeta / Color&Special effect by Yuki







# M S N - 0 2 Z E O N G

【ジオング／ジオン公国軍】

ニュータイプの軍事利用による究極の MS 開発を目論んだジオン公国軍が、一年戦争末期に実戦投入した NT 専用 MS。腕部のメガ粒子砲を有線誘導して行なわれるオールレンジ攻撃は、本機の真骨頂とも言える攻撃方法であった。しかし、搭載されたサイコミュ・システムを使いこなせるパイロットはごく少数に限られ、ア・パオア・クー攻防戦において、シャア・アズナブルが未完成機に搭乗したというのが唯一の運用記録である。



①②ニュータイプ専用 MS として開発されたが、脚部のユニットの製造が間に合わず、全体の完成度は 80% とも言われていた。③武装はすべてメガ粒子砲という偏った武装であったが、圧倒的火力を誇る有線誘導式メガ粒子砲によるオールレンジ攻撃が可能であった。④⑤コクピットは頭部と胸部とに分かれており、有線式誘導兵器と機体制御を分担することが可能であった。シャアは本体が撃破された後も、頭部のみで戦闘を継続している。『機動戦士ガンダム』

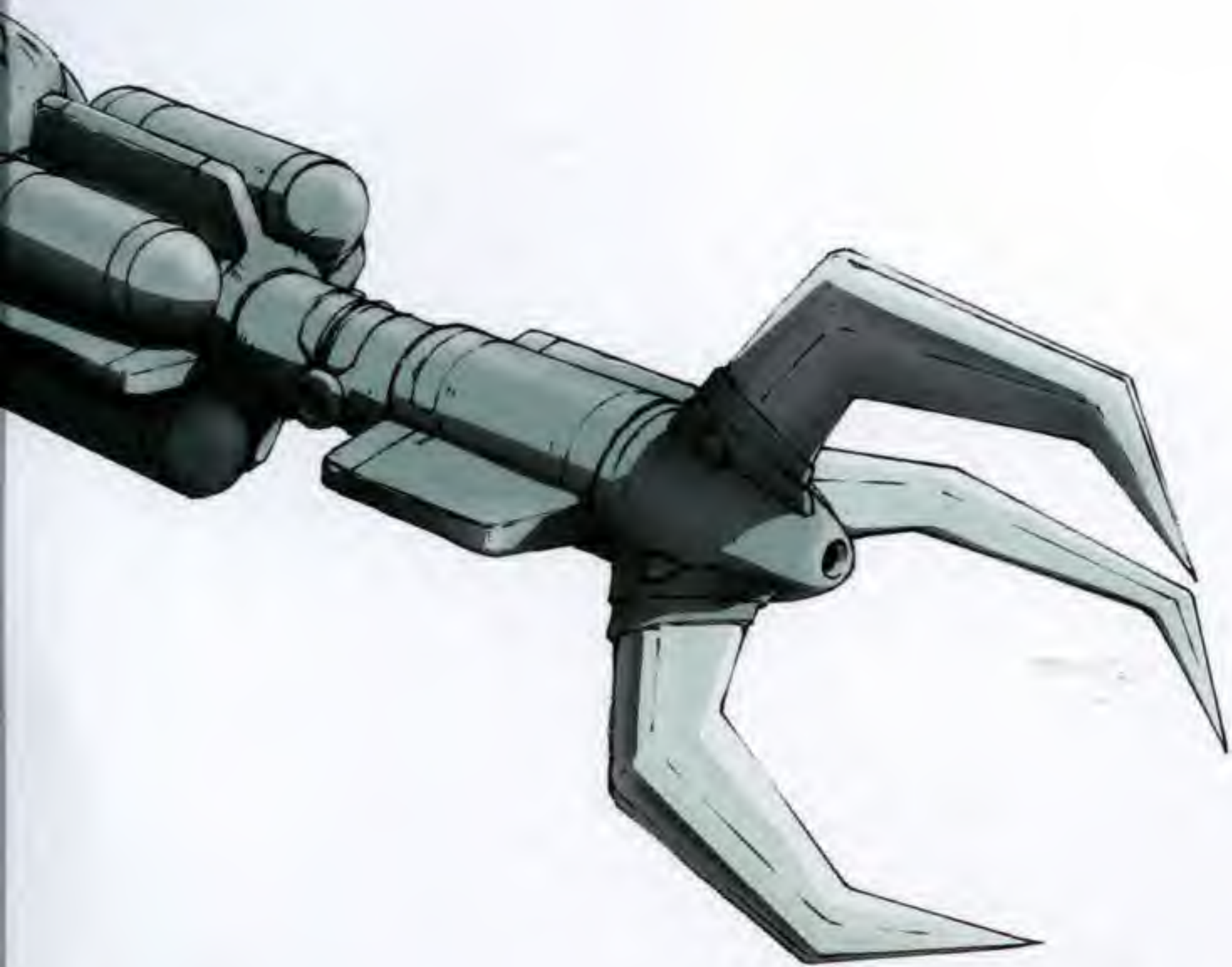
[Spec] 頭頂高: 17.3m 本体重量: 151.2t ジェネレーター出力: 9,400kW スラスター推力: 187,000kg 装甲材質: 超硬スチール合金 武装: 有線式 5 連装メガ粒子砲×2 / 頭部メガ粒子砲 / 腕部メガ粒子砲×2 搭乗者: シャア・アズナブル

Illustration & Special effect by Shino,Masanori / Color by Hiromi Miyawaki









# M A - 0 5 B I G R O

【ビグロ／ジオン公国軍】

MSの誕生は既存の兵器体系にパラダイム・シフトをもたらし、さらには限定環境に特化したモビルアーマー（MA = Mobile A.R.M.O.U.R.）という兵器を生み出した。その先駆とも言える機体が、一年戦争期にジオン公国軍が開発した MA-05 ビグロである。内蔵式の固定兵装による大火力と爆発的な推力に基づいた高機動戦闘というスタイルを示した本機は、宇宙世紀における日進月歩の兵器開発の歴史に確かな足跡を残した。そして、その有効性を戦場で高らかに謳ったのである。



①②大推力による高機動性能と、大型メガ粒子砲による大火力を実現したビグロだが、モビルアーマーの運用方法が確立していなかったこともあり、予想されたほどの戦果を挙げることはできなかった。③④試験的に実戦投入されたとされる機体も、ガンダムとの戦闘で失われている。⑤一年戦争末期のア・バオア・クー攻防戦の他、いくつかの戦線で実戦投入されており、最終的には12から14機ほどが生産されたと言われている。『機動戦士ガンダム』

〔Spec〕 全長：45.5m（全高：23.6m） 本体重量：125.5t ジェネレーター出力：17,800kW スラスター推力：136,100kg 装甲材質：超硬スチール合金 武装：大型メガ粒子砲／4連装ミサイル・ランチャー×2／大型クローアーム 搭乗者：トクワン

Illustration by Katsutoshi Tsunoda / Color by Hiroko Umezaki / Special effect by Kei Tsunematsu







# M A - 0 4 X Z A K R E L L O

【ザクレロ／ジオン公国軍】

モビルアーマー（MA）という兵器が誕生した一年戦争時に、その可能性を模索するジオン公国軍が試作した宇宙用 MA がザクレロである。大火力・高機動というコンセプトの下に開発された本機だが、機動性の低さから予定された性能を発揮できなかったため、計画の破棄という結果に終わってしまった。最初期の MA としてその特異な形状と端的な設計で見る者に鮮烈な印象を与えたものの、技術的なハードルをクリアできずに消えていったのである。



①②③人型から大きく乖離した形状を持つモビルアーマーにあっても、一際異形が存在するという印象を与える外観。最大の特徴である両腕のヒート・ナダはヒート系兵器の技術に応用した格闘用武器である。④口にあたる部分には拡散ビーム砲を内蔵しており、有効射程こそ短いものの火力そのものは高かったといわれる。⑤ガンダムとの戦闘で失われたが、ア・バオア・クー攻防戦において別の機体が投入されていたという説もある。『機動戦士ガンダム』

〔Spec〕 頭頂高：不明 本体重量：不明 ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：不明 武装：拡散ビーム砲／8連装ミサイル・ランチャー／大型ヒート・クロー（ヒート・ナダ） 搭乗者：デミトリ

Illustration by Seichi Nakatani / Color by Reiko Iwasawa / Special effect by Masayuki Hiraoka









# MAX-03 AZAMU

【アッザム / ジオン公国軍】

ジオン公国軍にとっての一年戦争は、新兵器の実験の舞台でもあった。その最たるものがMSであり、この革新的な兵器は一年戦争を通じて急速に発展していった。その一方でMSとは別の道を歩む形で誕生した兵器もある——モビルアーマー(MA)である。そのカテゴリーの原型となった試作兵器がMAX-03 アッザムだった。本機はミノフスキー・クラフトによる重力下飛行が可能とし、8基16門のメガ粒子砲と特殊兵装アッザム・リーダーを搭載することで移動砲台としての運用が試みられた。その高度な設計思想は公国軍の兵器体系に大きな影響を与え、やがてはMAの発想へと受け継がれていくことになる。決して成功例とは言えないものの、本機の実在は宇宙世紀の兵器開発に一石を投じたのである。



①②機動兵器というよりも移動要塞といった側面が強く、モビルアーマーというよりも、そのひな形ともいえる機体であった。③④メガ粒子砲や放熱磁場を発生させる特殊兵器、アッザム・リーダーなどの武装を備えるが、対MS用というよりも対地攻撃兵器としての役割が重視されていたようだ。⑤コクピットはパイロットとコ・パイロットが並列する複座式で、要塞のような巨体からは想像できないほど狭小なものであった。『機動戦士ガンダム』

【Spec】 全高：25.2m（翼展24.0m） 本体重量：860.0t（翼展300t） ジェネレーター出力：不明（約620,000kw） スラスター推力：不明 装甲材質：不明 武装：アッザム・リーダー／2連装メガ粒子砲×8  
開発者：マ・クベ／キンリヤ・ザビ

Illustration by Seichi Nakatani / Color by Reiko Iwasawa / Special effect by Masayuki Hiraoka







# M A - 0 8 B I G - Z A M

【ビグ・ザム／ジオン公国軍】

ジャブロー攻略用にジオン公国軍が開発した大型 MA。合計 27 門のメガ粒子砲による絶対的な火力と、1フィールド・ジェネレーターによる無敵の対ビーム防御力を併せ持ち、その攻撃／防御能力は一年戦争最強と言っても過言ではない。地球連邦軍によるソロモン攻略戦の終盤、ドズル・ザビ中将が搭乗した本機は、一説には艦艇 9 隻（ティアンム中将の乗艦する連合軍第 2 連合艦隊旗艦タイタンを含む）、MS21 機、戦闘機 1 機を撃沈、撃墜したと言われている。しかし最後は、アムロ・レイ少尉の RX-78-2 ガンダムに撃破された。



①②③胴体部分の外周に設置された 26 門ものメガ粒子砲は、全方位への攻撃を可能にしている。1 門だけでも戦艦の主砲クラスの威力があり、一説には地球連邦軍艦艇 9 隻を撃沈したという。④1フィールド・ジェネレーターによる対ビーム・バリアを展開可能で、マゼラン級の主砲をも跳ね返している。⑤機体管制が複雑なため、コクピットは 3 人のパイロットが分担するように三座式となっている。中央のシートがメインパイロット用となる。『機動戦士ガンダム』

【Spec】 全高：59.6m 本体重量：1,021.2t ジェネレーター出力：140,000kw スラスター推力：580,000kg 装甲材質：不明 武装：大型メガ粒子砲／メガ粒子砲×26／105mm バルカン砲×2／対空ミサイル×6／対ビーム用電磁波障壁（1フィールド・ジェネレーター） 搭乗者：ドズル・ザビ／マイヤー 他

Illustration by Morifumi Naka / Color by Takako Suzuki / Special effect by Masayuki Hiraoka



# MAN-03 BRAW-BRO

【ブラウ・プロ／ジオン公国軍】

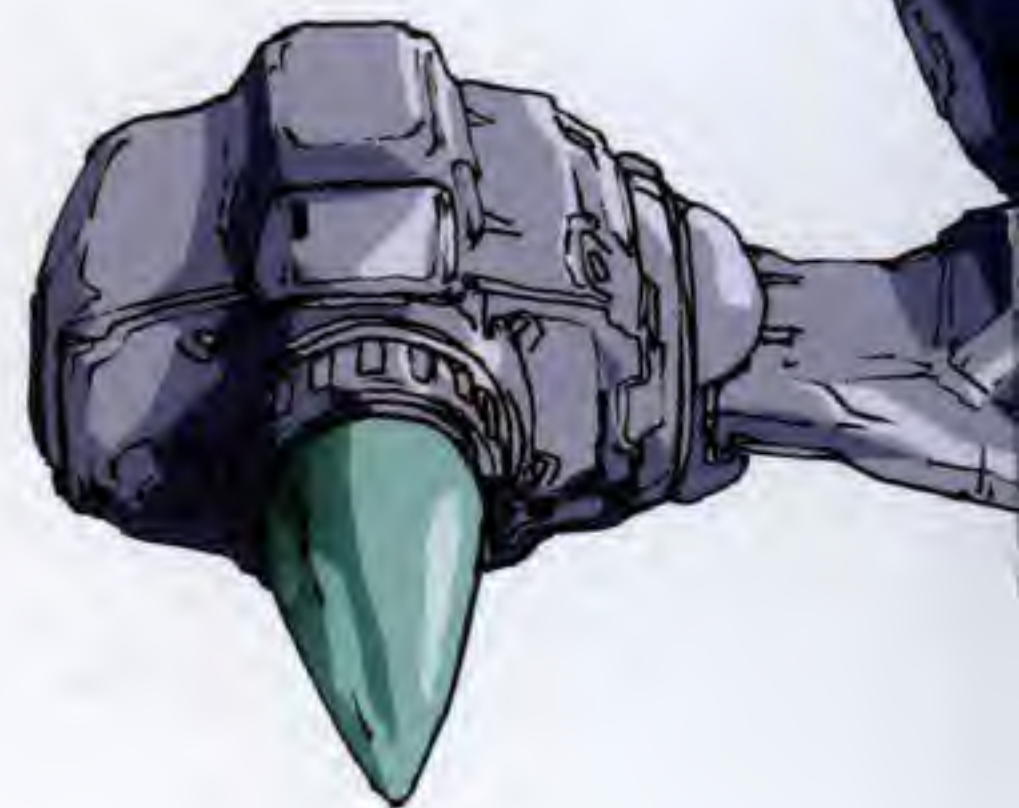
ジオン公国軍が推進したニュータイプの軍事転用—その最初期の成果が MAN-03 ブラウ・プロである。サイコミュ・システムによって制御される有線式メガ粒子砲を4基搭載し、オールレンジ攻撃を可能とした本機は、NT専用機という新たな兵器カテゴリーを明確なものとした。そして機能的には多くの問題点を抱えながらも兵器としての展望を窺わせた本機の出現により、ニュータイプたちは戦争の道具に利用されることになったのである。



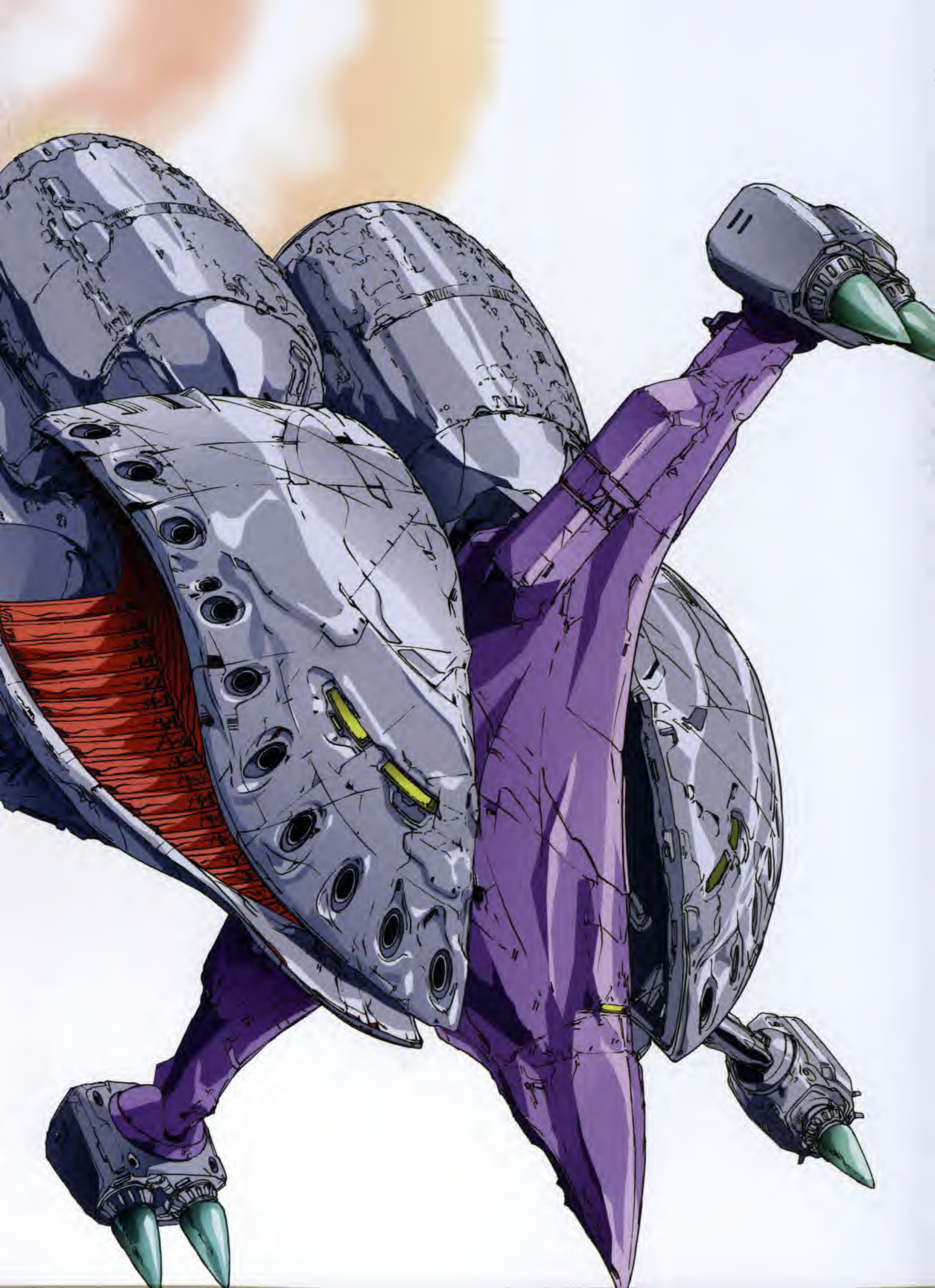
①②有線制御式メガ粒子砲塔はサイコミュによって遠隔操作が可能であった。本機の武装はこれのみだが、オールレンジ攻撃を常人が回避することは非常に困難であった。③要求された性能を満たすためには、小型艦艇ほどのサイズが必要となった。機体は中央部分と左右ブロックに分かれており、それぞれが独立して航行可能であった。④⑤⑥機体操縦用のコントロール・シートと、ニュータイプ用のガンナーズ・シートに分かれたコックピット。『機動戦士ガンダム』

[Spec] 全高：60.2m | 全長：62.4m | 本体重量：1,735.3t | ジェネレーター出力：74,000kW | スラスター推力：1,760,000kg | 装甲材質：不明 | 武装：有線制御式メガ粒子砲塔×4 | 搭乗者：シャリア・ブル/シムス・アル他

Illustration by Atsushi Shigeta / Color and Special effect by Yuki













# M A N - 0 8 E L M E T H

【エルメス／ジオン公国軍】

ジオン公国軍とフラナガン機関によって開発された、ニュータイプ専用 MA。サイコミュを介してコントロールされる無線式攻撃端末「ビット」を装備した最初期の機体で、ビットによる遠隔攻撃を前提に開発された。ララァ・スン少尉に任せられた2号機は、ビットを駆使して宇宙要塞コンペイトウ（旧ソロモン）を奇襲、地球連邦軍の駐留艦艇を次々に撃破したことから「ソロモンの亡霊」と呼ばれ、恐れられた。その数は、艦艇7隻、MS6機にも及ぶという。その外見から、連邦軍の一部から「とんがり帽子」とあだ名された。



①②サイコミュ制御による無線式攻撃端末ビットを使い、全方位から集中砲火を浴びせることが可能。離れた場所からも正確に攻撃できることから、連邦軍将兵に「亡霊」として恐れられた。  
③④本体にはメガ粒子砲が2基しか装備されておらず、あくまでもビットの搭載が優先された設計となっている。⑤ビットだけでなくサイコミュによる機体制御も行われていたため、コクピット内にはコントロール・スティック程度しか設置されていない。『機動戦士ガンダム』

〔Spec〕 全長：85.4m（全高：47.7m） 本体重量：163.7t ジェネレーター出力：14,200kW スラスター推力：645,200kg 装甲材質：不明 武装：メガ粒子砲×2／ビット×12 搭乗者：ララァ・スン  
Illustration by Atsushi Shigeta / Color&Special effect by Yuki







# R X - 7 9 [ G ] G U N D A M G R O U N D T Y P E

【陸戦型ガンダム／地球連邦軍】

一年戦争中期、「V 作戦」による MS 開発計画を進めていた地球連邦軍は、一方で前線から上がる MS 早期導入の声に苦慮した。そうした要求に応えるため、RX-78 ガンダムの余剰パーツを用いて陸戦仕様 MS の量産を試みたものが RX-79 [G] 陸戦型ガンダムである。地上戦に限定して少数が生産された本機は、密林や砂漠などの苛酷な戦場を抱える極東地区に配備され、ジオン公国軍の勢力拡大を食い止める盾となった。同時に、その激戦の中で連邦地上軍の MS 戦術を開拓する役割も担ったのである。



①②③ビーム兵器の装備も可能だったが、より実用性が優先された結果、実体弾系の武器が使用されることが多かった。背面には各種武装や物資を運搬できるウェポン・コンテナを装備しており、単独での作戦遂行能力を高めている。このコンテナ・ラックを応用してパラシュートを内装した降下用バッグも用意された。④⑤コグビットは腹部から胸部へと移動され、コア・ブロック・システムは廃止された。構造も簡略化されているようだ。『機動戦士ガンダム 第08MS小队』

〔Spec〕 全高：18.0m 本体重量：52.8t ジェネレーター出力：1,350kW スラスター推力：52,000kg 装甲材質：ルナ・チタニウム合金 武装：100mm マシンガン／180mm キャノン／ビーム・ライフル／胸部バルカン砲／胸部マルチ・ランチャー／ビーム・サーベル×2／ネット・ガン／シールド・シールド 搭乗者：シロー・アマダ／カレン・ジョシュワ／テリヤ・サンダース 他

Illustration & Special effect by Shino,Masanori / Color by Hiromi Miyawaki



# R X - 7 9 [ G ] E z - 8 G U N D A M E z 8

【ガンダム Ez-8 / 地球連邦軍】

ジオン公国軍の試作 MA アプサラスIIとの交戦で大破したシロー・アマダのRX-79 [G] 陸戦型ガンダムは、大規模な修理と改修によって大きく姿を変えることとなった。その改修機、RX-79 [G] Ez-8 ガンダム Ez8 には各種兵装の換装や装甲形状の見直しといった、ベース機とは一線を画する変更が加えられた。それは、シローが実践的な機体を必要とした結果であり、有り合わせの部品で対処せざるをえない最前線の事情を映し出した姿でもあった。



①②基本構造にはほとんど手を加えられていないものの、頭部や胸部など装甲形状は大幅に変更された。これら装甲形状の変更は、すべて実践的な運用に基づく改良であったという。③④武装は陸戦型ガンダムと同様のものが使用可能だったが、100mm マシンガンとビーム・ライフル、ビーム・サーベル程度しか使われていない。⑤コクピットの位置に変更はないが、胸部装甲の形状が大きく変更され、12.7mm バルカン砲も新設されている。『機動戦士ガンダム 第08MS 小隊』

[Spec] 頭頂高：18.0m 本体重量：51.5t ジェネレーター出力：1,380kW スラスター推力：53,000kg 装甲材質：ルナ・チタニウム合金 武装：対歩兵用 12.7mm バルカン砲／35mm 機関砲×2／ビーム・ライフル／ビーム・サーベル×2／100mm マシンガン／改良型ショート・シールド 他 搭乗者：シロー・アマダ

Illustration by Kouji Sugiura / Color and Special effect by Shihoko Nakayama







# MS-07B-3 GOUF CUSTOM

【グフ・カスタム／ジオン公国軍】

MS-06J ザクⅡJ型に代わる陸戦用MSとして開発されたMS-07B グフは、内蔵兵装を採用した意欲的な設計によって高い格闘性能を獲得した反面、汎用性の欠如が目立つ機体であった。その欠点を解消するために開発された改修機がMS-07B-3 グフ・カスタムである。内蔵兵装の代わりに外装オプション兵装を採用したことで汎用性を取り戻し、高度な対MS戦闘を可能とした本機は、エースパイロットの本領を発揮させるに足る名機となったのだった。



①② MS-07B グフから引き継ぐ格闘用武器であるヒート・サーベルを装備。近接格闘において絶大な威力を発揮した。③ヒート・ワイヤーはショック・パルスによる電子機器へのダメージはもちろん、マグネットやフックなどによる牽引も可能であった。④射撃兵装として2種類のカトリング砲を装備。これにより幅広い戦闘へ対応可能となった本機はMS-07B グフでの欠点をほぼ克服していたと言える。⑤コクピットの構造は一般的なものであった。『機動戦士ガンダム 第08MS小隊』

〔Spec〕 頭頂高：18.2m（全高：18.7m） 本体重量：58.5t ジェネレーター出力：1,034kW スラスター推力：40,700kg 装甲材質：超硬スチール合金 武装：ヒート・サーベル／ヒート・ワイヤー／3連装カトリング砲／カトリング・シールド 搭乗者：ノリス・バッカー

Illustration by Kouji Sugiura / Color and Special effect by Shihoko Nakayama











# A P S A R A S III

【アプサラスIII／ジオン公国軍】

ジオン公国軍技術将校ギニアス・サハリンが、己のすべてを懸けて開発した試作 MA の完成形——それがアプサラスIIIである。ミノフスキー・クラフトによる飛行性能と、山をも穿つ威力を持つメガ粒子砲を備えたこの巨大 MA は、敵拠点に対する成層圏からの降下攻撃という特異な戦術の上に成り立っていた。だが、本機の完成に固執するギニアスの執念と策謀によって多くの公国軍兵士が犠牲となり、本機は彼の狂気の象徴となったのであった。



①②ジャブローへの直接攻撃というコンセプトが反映されたアプサラスIII唯一の兵装が大型メガ粒子砲である。出力の調整によってビームを集束／拡散させることも可能だった。その威力は絶大で、山を貫通して遠方の地球連邦軍部隊を殲滅するほどであった。③④ミノフスキー・クラフトによって安定した飛行性能を獲得している。⑤コクピットは機体制御と火器管制を個別に行う複座式となっているが、単純な操作はどちらか一方でも可能だった。『機動戦士ガンダム 第08MS小隊』

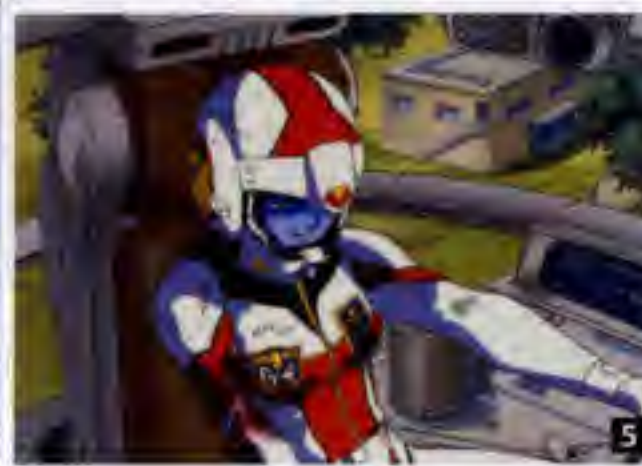
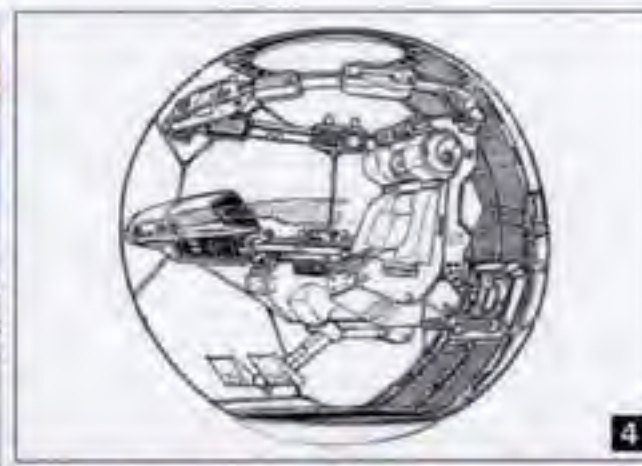
[Spec] 頭頂高：不明 本体重量：不明 ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：不明 武装：大口徑メガ粒子砲 搭乗者：ギニアス・サハリン／アイナ・サハリン  
Illustration by Morifumi Naka / Color by Takako Suzuki / Special effect by Masayuki Hiraoka



# R X - 7 8 N T - 1 A L E X

【アレックス／地球連邦軍】

一年戦争末期、アムロ・レイの戦果にニュータイプの実在を確信した地球連邦軍は、その能力に対応したMSの開発を急務とした。マグネット・コーティングやリニア・シートの導入などによって、ニュータイプの尋常ならざる反応速度にも十分に追従できる能力を与えられた機体——それがRX-78NT-1と呼ばれるニュータイプ専用ガンダムである。だが、本機はその役割を全うする前に、ジオン公国軍の「ルビコン作戦」の標的となったのだった。



①当初は全身をチョバム・アーマーと呼ばれる増加装甲に覆われていた。②両腕に内蔵されたガトリング・ガンはあくまでも補助兵装であったが、その威力は高くケンパファーを撃破している。③本来用意された武装はほとんど使用できず、本体に内蔵されたビーム・サーベルでザクII改に対峙した。④⑤コクピットは新規技術である全天周モニターとリニア・シートを採用しており、常人難れたニュータイプの操縦技術に対応していた。『機動戦士ガンダム 0080 ポケットの中の戦争』

[Spec] 全高：18.0m 本体重量：40.0t ジェネレーター出力：1,420kW スラスター推力：174,000kg 装甲材質：ルナ・チタニウム合金 武装：頭部バルカン砲×2 / 腕部ガトリング砲×2 / ビーム・サーベル×2 / ビーム・ライフル / 専用シールド 他 搭乗者：クリスティーナ・マッケンジー

Illustration by Kouji Sugiura / Color&Special effect by Shihoko Nakayama











# MS - 06 FZ ZAKU II FZ

【ザクII改/ジオン公国軍】

一年戦争末期、ジオン公国軍は「統合整備計画」によって主力MS群の規格統一を進める中で、傑作機MS-06 ザクIIの改修を図った。その結果、誕生したのがMS-06FZ ザクII改である。従来機の1ランク上に値する運動性と優れた操作性、高い整備性を兼ね備えたこのMSは、高水準の量産機と評価されるに十分な性能を有していた。しかし、終戦直前の配備では真価を活かす機会を与えられず、歴史の片隅にのみ、その輝きを残すこととなる。



①②主兵装となるMMP-80マシンガンは統合整備計画によって開発されたMS用の火器で、ザクII改の他にもリック・ドムIIなどでも使用されている。③④格闘戦用にヒート・ホークを装備。旧来からの装備と大きな変更はないが、柄部分に伸縮機能が追加されている。⑤操作系の統一とパイロットの生存性向上を図った、第二期生産型と呼ばれるコクピット・システムを採用している。また、コクピットの位置は胸部中央へと移動している。『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』

〔Spec〕 頭頂高：17.5m 本体重量：56.2t ジェネレーター出力：976kW スラスター推力：79,500kg 装甲材質：チタン・セラミック複合材 武装：MMP-80マシンガン/ハンド・グレネード×3/シユツルム・ファウスト 他 搭乗者：バーナード・ワイズマン 他

Illustration by Morifumi Naka / Color by Takako Suzuki / Special effect by Kumiko Taniguchi







# M S - 1 8 E K Ä M P F E R

【ケンプファー／ジオン公国軍】

一年戦争終戦直前にロールアウトしたジオン公国軍最後期のMS。多彩な実体弾携行兵装をフレキシブルに運用する能力と、その火力を迅速に前線に到達させる機動力。極端に攻撃的な設計思想の下に生み出されたこの機体には「強襲用」という特別な分類が成されている。しかし、新たな着眼点による運用理論を活かす機会が、サイド6で発生した「ルビコン作戦」における実戦投入しか確認されていない。地球連邦軍レビル将軍が「ポケットの中の戦争」と評した小さな戦場が、最初で最後の戦いの舞台だったのである。



①②③本機はビーム兵装を排するかわりに複数の実体弾兵装を同時に携行・運用することを可能にしている。弾薬を撃ち切った武器を次々と捨てることでデッドウェイトを減らし、機体への負担を減らすという運用がなされた。④⑤機体のブロック構造によって組立てが容易となっており、メンテナンス性の向上が図られた。サイクロプス隊の潜入任務ではコロニー内への秘密裡の搬入とその後の組み立てが可能となり、思わぬメリットとなった。『機動戦士ガンダム 0080 ポケットの中の戦争』

[Spec] 頭頂高：17.7m 本体重量：43.5t ジェネレーター出力：1,550kW スラスター推力：159,000kg 装甲材質：チタン・セラミック複合材 武装：専用ショットガン×2／シャイアント・バズ×2／シコウラム・ファウスト×1／ビーム・サーベル×2／頭部バルカン砲×2／チェーン・マイン 搭乗者：ミハイル・カミンスキー

Illustration by Shino,Masanori / Color by Hiromi Miyawaki / Special effect by Takayuki Furukawa



# YMT-05 HILDOLF R

【ヒルドルフ／ジオン公国軍】

地球侵攻作戦を推し進めるジオン公国軍によって開発された異端の兵器、YMT-05 ヒルドルフ。全長 30m を超えるこの巨大な戦車は、MS という新兵器に翻弄された開発現場の迷走を表していた。地球連邦軍の既存戦車を凌駕する性能を有する超弩級戦車を目指して開発された本機は、戦車としての機能を追求する過程で迷走を始め、MS の登場によって実戦投入を見ぬままに封印された。MS の機構を機体に反映させるという起死回生のアイデアを導入しつつも、ついに有効性を見い出せなかった本機は、一度はその命運を終えたのだった。だが公国軍の逼迫した状況が、眠りについた「狼」を呼び起こしたのである。



①本機の主砲には 30 サンチ砲が採用された。MS を一撃で破砕するほどの破壊力を有し、様々な種類の砲弾を使い分けることで柔軟な戦闘を可能とした。②③ MS と同様の腕部を備えた展開式砲塔。車高を自由に変更すると同時に、マシンガンなど MS 用の携帯火器の転用も可能とした。④⑤小型陸戦艇にも近い巨大ながら、コクピットは一人乗りとなる。『機動戦士ガンダム MS IGLOO - 1 年戦争秘録 -』

〔Spec〕 全長：35.3m（全幅：14.7m） 標準車高：8.6m（最大車高：13.3m） 全備重量：220t ミノブスキー型核融合炉出力：3,300kW 装甲材質：不明 武装：30 サンチ砲ノズルモーク・デイスチャージャー×16  
マシンガン 搭乗者：デメジエール・ソノン  
CG WORKS by SUNRISE D.I.D.











# E M S - 1 0 Z U D A H

【ツダ／ジオン公国軍】

1年戦争時にジオン公国軍が導入した EMS-10 ツダは光と陰に彩られた MS だった。新鋭機としての期待を一身に受けた光と、MS-05 ザクIとのトライアルに敗れたという陰——さらに本機は、その陰の部分で政治工作に利用された MS でもあった。従来の機体を凌駕する機動性を有しながらも、加速性能に耐え切れないという欠陥を敵のプロパガンダに利用され、日の目を見ることのなかった本機は「ゴーストファイター」と呼ばれたのだった。



①②③「土星」エンジンと呼ばれる大出力エンジンの搭載により、ツダは従来機を大きく凌ぐ機動性を獲得した。機体各所にあるスリット状のフィン。大出力エンジンが発する熱を効率的に排出するための機構であり、機体構造そのものにも機動性重視の設計が見られる。④⑤機体に施されたブルーを基調としたカラーリングは、折線や斜線に沿って同系色を配する「スプリッター迷彩」と呼ばれるカムフラージュ・パターンとなっている。『機動戦士ガンダム MS IGLOO - 1年戦争秘録 -』

【Spec】 頭高：17.3m 本体重量：61.0t ジェネレーター出力：1,150kW スラスター推力：58,700kg 装甲材質：不明 武装：120mm ザク・マシンガン/ザク・バズーカ/シェイズルム・ファウスト/ビート・ホーク  
その他 搭乗者：ジャン・リョック・デュバル/ヒド・ワシヤン/オッチナン・シェル/モニク・キャディラック  
CG Works by SUNRISE D.I.D.



# MSM-07 Di Ze' GOK

【ゼーゴック／ジオン公国軍】

衛星軌道上からの大気圏突入によって奇襲攻撃を行うモビルダイバーシステム。その中枢となる機動管制ユニットが、MSM-07Di ゼーゴックである。MSM-07 ズゴックをベースに急造された本機はシステムの実証試験機として運用される予定だったが、戦局の悪化による生産能力の低下から、急遽、実戦配備されることとなった。大気圏という「海」に潜って獲物を狙う——本機はその危険な作戦に、文字どおりの捨て石として投入されたのである。



①②ズゴックの上半身にブースターをつなげたようなゼーゴックの外観。本機に搭載された武装は左腕のメガ粒子砲1基のみで、ベースとなっているズゴックに装備される頭部のミサイル発射管は取り外されている。③④⑤ゼーゴックは基本的にL.W.C.とよばれる揚力コンテナに内蔵した武装の制御ユニットであり、L.W.C.に搭載する武装にはロケット弾ポッドや大型ミサイル、さらには拡散ビーム砲「クーベルメ」などが用意されていた。『機動戦士ガンダム MS IGLOO -黙示録 0079-』

〔Spec〕 全長：27.3m（全幅：15.6m／全高：13.2m） 本体重量：212.0t ジェネレーター出力：2,452kW（ズゴック改造ユニット）＋4,680kW×2（ダイブマニューバー・ユニット熱核ジェットエンジン） スラスター推力：285,000kg 装甲材質：不明 武装：腕部メガ粒子砲 搭乗者：ヴェルナー・ホルバイン  
CG WORKS by SUNRISE D.I.D.









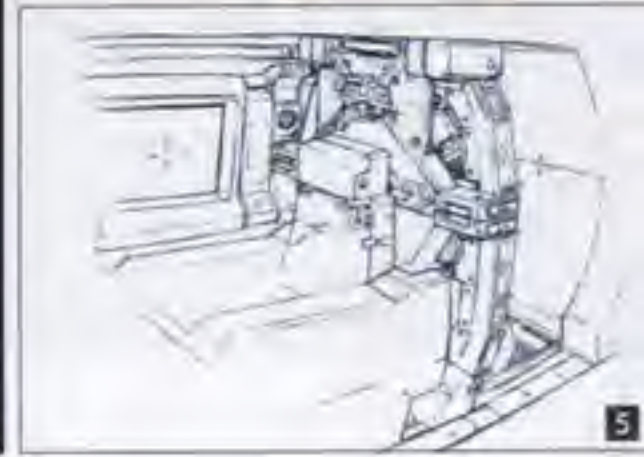




# M P - 0 2 A O G G O

【オグゴ／ジオン公国軍】

1年戦争末期、宇宙に進出した地球連邦軍に対抗すべく、ジオン公国軍技術本部は「モビルポッド計画」に着手した。そのプロジェクトによって生み出された機体が MP-02A オグゴである。地上からの撤退によって活動の場が失われた地上用MSのジェネレーターを流用し、MS用携行兵装を運用する能力を与えられた本機は、年少兵がパイロットとして評価試験に投入された。だが彼らの戦いの舞台は、ジオン公国の運命を賭けた激戦の地だったのである。



①② 2基のロケット・エンジンと推進剤タンク、コクピット・ブロックからなる機体は、筒型の異様なフォルムを成している。機体サイズとは釣り合いなほどの大推力ロケット・エンジンの搭載により、理論上の機動性は連邦軍のRB-79ボールを上回るとされる。③④ MS用の兵器類を機体の専用アタッチメントに直接マウントし、効果的に運用した。⑤コクピット構造はMSのものに近い。シートは背もたれが倒れ、コクピット後方から乗り込む。『機動戦士ガンダム MS IGLOO 黙示録 0079 ー』

【Spec】 全長：11.6m（全幅：14.7m／全高：7.8m） 本体乾重量：31.2t（全装備重量：57.8t） ジェネレーター出力：976kW スラスター推力：48,400kg 装甲材質：不明 武装：ザク・マシンガン／ザク・バズーカ／6連装ロケット・ポッド／シノフルム・ファウスト 搭乗者：エルヴィン・キャデラック 他  
CG WORKS by SUNRISE D.I.D.





# MA-05Ad BIG-RANG

【ビッグ・ラング／ジオン公国軍】

幾多の兵器開発計画が生み出した断片を繋ぎ合わせて生み出された、1年戦争末期のジオン公国軍補助兵器。それがMA-05Ad ビッグ・ラングである。本機は移動可能な前線橋頭堡として開発された戦闘支援型MAで、MA-05 ビグロと可搬補給廠（Ad）ユニット、弩級装甲ブースターという3つの要素からなる。しかしその実態は、計画半ばで放棄された未完成の試作兵器を組み合わせただけの急造機に過ぎなかった。それでも本機はア・バオア・クーの戦場で性能以上の戦果を挙げ、ジオン公国の最期を見届けたのである。



①モビルボットの補給を行う前線橋頭堡という運用コンセプトから、並みの宇宙艦艇にも匹敵する巨体となった。全長 200m を越えるサイズのため機動性は皆無に等しく、被弾は避けられなかった。②ビグロ・ユニットに装備された武装の他、ビーム攪乱弾発射筒や対艦ミサイルなどを装備。サラミス級などの大型目標に対する戦闘能力が高かった。③補給や修理作業の他、機体制御も一人でこなすため、コクピット内は複雑化している。『機動戦士ガンダム MS IGLOO 黙示録 0079 ー』

【Spec】 全長：203.0m（全幅：139.1m／全高：138.0m） 乾重量：12,000t（標準装備重量：17,900t） ジェネレーター出力：18,100kW（ビグロ・ユニット熱核エンジン） 最大ブースト推力：4,600t（アーチャーホリゾンタルブースター使用） 装甲材質：不明 武装：大出力メガ粒子砲／ミサイル・ランチャー×8、ガトリング砲×2、ビーム攪乱弾発射筒×4、3連装大型対（宇宙）艦ミサイル×2 搭乗者：オリヴァー・マイ

CG WORKS by SUNRISE D.I.D.











# R X - 7 8 G P 0 1 G U N D A M G P 0 1

【ガンダム試作1号機／地球連邦軍】

U.C.0081の「連邦軍再建計画」の一環である「ガンダム開発計画」において制作された試作MSのひとつで、名機RX-78ガンダムをベースとした多用途機。コア・ブロック・システムなどの既成技術、整備性や駆動柔軟性に秀でる部分的なムーバブル・フレームなど、新旧の技術が盛り込まれた次世代への橋渡しとなっている。コードネームは「ゼフィランサス」、開発はアナハイム・エレクトロニクス（AE）社。



①②③主兵装はRX-78ガンダムを踏襲した内容だが、ビーム・ライフルは換装可能なEバックを使用することで連射性に優れている。また、地上戦では実体弾式のブルバップ・マシンガンも使用している。④本機は白兵戦用に特化した陸戦仕様的设计であり、宇宙用にはパーツ換装で対応することで汎用性を確保した。⑤コア・ブロック・システムを採用するため、コクピット内部の構造はRX-78の型式を受け継いだような配置となっている。『機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY』

【Spec】 全高：18.0m 本体重量：39.7t ジェネレーター出力：1,790kW スラスター推力：108,000kg 装甲材質：ルナ・チタニウム合金 武装：頭部バルカン砲×2 / ビーム・ガン兼用ビーム・サーベル×2 / ビーム・ライフル / ブルバップ・マシンガン / 専用シールド 搭乗者：ゴウ・ウラキ

Illustration by Morifumi Naka / Color by Takako Suzuki / Special effect by Masayuki Hiraoka



# R X - 7 8 G P O 1 F b G U N D A M F u l l b u r n e r n

【ガンダム試作1号機フルバーニアン／地球連邦軍】

汎用性に優れるRX-78GP01 ガンダム試作1号機の特徴は、機体の仕様変更によって陸戦と宇宙戦のそれぞれに対応するという特殊な機構にあった。その開発コンセプトに沿って誕生した宇宙戦仕様機がRX-78GP01Fb ガンダム試作1号機フルバーニアンである。機動性の向上を目的とした追加装備を搭載し、優れた空間戦闘能力を獲得した本機は、U.C.0083 に勃発したデラーズ紛争の渦中でその真価を試されることとなるのである。



①②本来は簡易なユニット換装のみで宇宙用へと仕様変更されるはずだったが、機体の大破によって想定外の大改修を受け、計画時よりも大幅な性能向上が見られた。③④陸戦仕様との最大の違いが「ユニバーサル・ブースト・ポッド」と呼ばれるスラスター・ユニットである。柔軟な可動域により推力方向を自由自在に変更することで高い機動性を生み出している。⑤武装類は重力下仕様から大きく変更されず、若干の性能向上に留まっている。『機動戦士ガンダム 0083 STARDUST MEMORY』

【Spec】 頭頂高：18.5m 本体重量：43.2t ジェネレーター出力：2,045kW スラスター推力：234,000kg 装甲材質：ルナ・チタニウム合金 武装：頭部バルカン砲×2、ビーム・ガン兼用ビーム・サーベル×2、ビーム・ライフル、専用シールド 他 搭乗者：コウ・ウラキ

Illustration by Seiichi Nakatani / Color by Reiko Iwasawa / Special effect by Masayuki Hiraoka





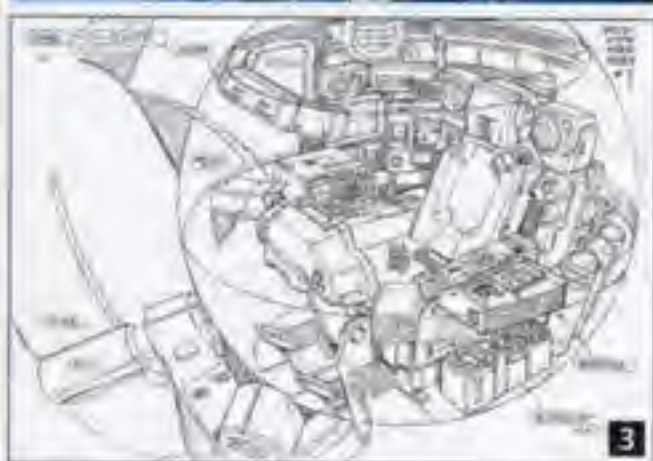




# R X - 7 8 G P 0 2 A G U N D A M G P 0 2 A

【ガンダム試作2号機／デラズ・フリート／地球連邦軍】

一年戦争終結後に実施された「ガンダム開発計画」によって開発された試作MS。本機はMSを核兵器の運用装置にするという発想のもとに生み出された機体であり、核による抑止戦略という旧世紀以来の思想を組み込んだMSでもあった。「ガンダム開発計画」のコンセプトである“最強の兵器”という問いに対する解答のひとつは、地球連邦軍の大艦巨砲主義を体現したものであったのである。しかし、このMSはU.C.0083のデラズ紛争を引き起こす原因のひとつともなった。デラズ・フリートによって強奪された2号機の矛先は、ほかならぬ連邦軍に向けられることとなる。



①機体背部の貯蔵庫から核弾頭がバズーカ基部に装填され、肩部に移動。シールド裏面から取り出されたバレルと基部が連結され、核弾頭の採取安全装置が解除されることでアトミック・バズーカの発射態勢が整う。②シールドには冷却装置の他にバズーカのバレルも収納されるため、防御用というよりもシステムの一部となっている。③コクピットは球形のものが採用され、球殻を装甲と構造材、放射線減速材などで幾重にも保護している。『機動戦士ガンダム 0083 STARDUST MEMORY』

(Spec) 頭頂高：18.5m 本体重量：54.5t ジェネレーター出力：1,860kW スラスター推力：155,200kg 装甲材質：ルナ・チタニウム合金 武装：頭部バルカン砲×2、バズーカ・サーベル、アトミック・バズーカ/ミサイル、シールド 搭乗者：アサベル・ガトー

Illustration by Shino, Masanori / Color by Hiromi Miyawaki / Special effect by Takayuki Furukawa









# RX-78GP03 GUNDAM GP03

【ガンダム試作3号機／地球連邦軍】

「ガンダム開発計画」によって生み出された怪物——それがRX-78GP03 ガンダム試作3号機である。各種兵装を満載した巨大なアームド・ベース（オーキス）にガンダム・タイプMSを管制システムとして組み込むという設計思想により、本機は単体の拠点防衛すら可能な機動兵器となった。そして「デンドロビウム（=わがままな美女）」のコードネームが与えられ、デラーズ・フリートが強行する「星の屑」作戦に対抗する力となったのである。



①②③④長さ90mもの長砲身を誇るメガ・ビーム砲やオーキスのウェポン・コンテナに収納された各種兵装は、対多数の大規模戦闘を想定したものだった。「フィールド・ジェネレーター」による対ビーム防御にも配慮されており、まさに攻守に優れる機動兵器であった。⑤本体中央部に内蔵されるステイメンと呼ばれるガンダムタイプMSはアームド・ベース「オーキス」を制御するコア・ユニットだが、基本性能は極めて高かったと言われる。『機動戦士ガンダム 0083 STARDUST MEMORY』

【Spec】 全長：140.0m（砲身を含まない本体：73.0m） 本体重量：2264t ジェネレーター出力：38,900KW スラスター推力：2,265,000kg 装甲材質：ルナ・チタニウム合金 武装：メガ・ビーム砲／大型ビーム・サーベル×2／フィールド・ジェネレーター／導弾×2／大型収束ミサイル／マイクロ・ミサイル・コンテナ／ビーム・ライフル／フォールディング・バズーカ×2他 搭乗者：コウ・ウラキ

Illustration by Atsushi Shigeta / Color and Special effect by Yuki











# R G M - 7 9 N G M C U S T O M

【ジム・カスタム／地球連邦軍】

一年戦争後、地球連邦軍はその体制をより強固なものとするべく「連邦軍再建計画」による戦力拡充を図った。その計画に沿って開発されたエース用 MS のひとつが RGM-79N ジム・カスタムである。従来機から 1 ランク上の性能を獲得すべくガンダム・タイプ MS の技術を転用した本機は、高い総合性能を有した MS となった。その性能ゆえにパイロットには相応のスキルが要求され、熟練パイロットを中心に少数が配備されるに留まっている。



①②③搭載ジェネレーターの出力不足からビーム系携行兵器の運用には信頼性に欠ける部分があった。そのため本機では運用実績のある実弾系兵器のジム・ライフルが標準装備とされている。模擬戦時にはブルバップ・マシンガンを使用することもあったようだ。④本機の胸部ユニット、腕部、脚部ユニットなどの一部には RX-78NT-1 の技術が転用されている。⑤コクピット構造は従来機種と同様の連邦軍統一タイプのものが採用されている。『機動戦士ガンダム 0083 STARDUST MEMORY』

[Spec] 頭頂高：18.0m 本体重量：42.0t ジェネレーター出力：1,420kW スラスター推力：67,480kg 装甲材質：チタン・セラミック複合材 武装：腕部バズカ砲×2／ビーム・サーベル／ジム・ライフル／シールド 搭乗者：サウス・バニング／アルファ・A・バート／ベルナルド・モンシア

Illustration by Kouji Sugiura / Color & Special effect by Shihoko Nakayama







# Y M S - 1 6 M X A M E L

【ザメル／ジオン公国軍】

一年戦争時、ジオン公国軍によって開発された地上支援用 MS の究極機。口径 680mm の巨大なカノン砲による砲撃能力と、速やかに砲撃地点へと移動するためのホバー走行性能を併せ持つ。長距離支援砲撃という一点のみにコンセプトを絞った機体設計は、本機を MS と呼ぶにはあまりにもいびつな「移動砲台」となさしめた。その後、公国軍が地上での基盤を失ったことによって運用の機会を奪われた本機は、終戦から 3 年の時を経てようやくその咆哮を響かせることになったのである。



①②鈍重そうな外観とは裏腹に、本機は脚部のホバー・ユニットを用いた高速移動を得意とした。③④長距離砲撃戦に極端なまでに特化した本機の設計思想は、口径 680mm の火薬式実体弾カノン砲という規格外の兵装を与えた。その反面、接近戦用の武装は省かれ、白兵戦能力が欠如した MA 的な機体となっている。⑤胴体前部、モノアイの直後に配置されたコクピット。複座式を採用しており、前席がパイロット、後席は砲撃手用となっていた。『機動戦士ガンダム 0083 STARDUST MEMORY』

【Spec】 全高：27.0m 本体重量：75.0t ジェネレーター出力：1,080kW スラスター推力：61,800kg 装甲材質：超硬スチール合金 武装：680mm カノン砲／8 連装多弾倉ミサイル・ランチャー／20mm バルカン 搭乗者：ホブ

Illustration by Koji Sugiura / Color & Special effect by Shihoko Nakayama







# A M A - X 2 N E U E Z I E L

【ノイエ・ジール／ジオン公国軍】

一年戦争後にアステロイド・ベルトへと落ち延びたジオン公国軍残党アクシズによって試作され、先遣艦隊を通じてデラーズ・フリートへ譲渡された宇宙用大型 MA。機体各所に配されたメガ粒子砲の火力とIフィールドによる防御性能は、単機で1個艦隊を圧倒するほどの戦闘力をこの巨大 MA に与えることになった。その強大な力は「星の屑」作戦においてアナベル・ガトーの手で存分に振るわれ、戦後の地球圏に壮烈な一撃を刻み付けたのである。



①②③偏向メガ粒子砲やメガ・カノン砲といった一撃で艦艇を撃沈するほどの火力と、ビーム兵器を無効化する「Iフィールド」による鉄壁の防御を兼ね備える。④有線式クロー・アームはニュータイプでなくともオールレンジ攻撃を可能にする兵装だが、制御には相応の操縦技術を要した。⑤コクピットは単座式で、複雑な制御のすべてを一人で行う必要がある。『機動戦士ガンダム 0083 STARDUST MEMORY』

[Spec] 全高：76.6m 本体重量：198.2t ジェネレーター出力：75,800kW スラスター推力：1,938,000kg 装甲材質：チタン・セラミック複合材 武装：メガ・カノン砲／偏向メガ粒子砲×9／有線式クロー・アーム×2／メガ粒子砲×6／大型ミサイルランチャー×4／小型ミサイルランチャー×24／Iフィールド・ジェネレーター×4／ビーム・サーベル内蔵サブ・アーム×4 搭乗者：アナベル・ガトー

Illustration by Morifumi Naka / Color by Takako Suzuki / Special effect by Kei Tsunematsu







# A G X - 0 4      G E R B E R A - T E T R A

【ガーベラ・テトラ / ジオン公国軍】

地球連邦軍とアナハイム・エレクトロニクス（AE）社による「ガンダム開発計画」の一環として開発されたものの、シーマ・ガラハウへと供与されたという数奇な星の下に誕生したのがガーベラ・テトラである。シュツルム・ブースターと呼ばれる追加推進ユニットを採用した本機は、本来ならば連邦軍の貴重な戦力となるはずだった。しかしシーマの手に渡った機体は、デラーズ紛争の片隅に咲き誇り、そして儚く散っていったのである。



①②③④強襲用 MS に相応しく、主兵装にはビーム・マシンガンを採用。これはビームの連射を実現した攻撃的な武器であったが、反面、冷却性能に問題があり、過負荷になると強制排熱のためリミッターが作動するようになっていた。⑤本来はガンダム開発計画の一環として開発された機体だったため、コクピット構造は連邦軍の共通規格となっていた。『機動戦士ガンダム 0083 STARDUST MEMORY』

〔Spec〕 頭頂高：18.0m 本体重量：46.7t ジェネレーター出力：1,710kW スラスター推力：216,000kg 装甲材質：ルナ・チタニウム合金 武装：胸部 110mm 機関砲×4 / ビーム・サーベル×2 / ビーム・マシンガン 搭乗者：シーマ・ガラハウ

Illustration by Katsutoshi Tsunoda / Color by Hiroko Umezaki / Special effect by Kei Tsunematsu







# M A - 0 6 V A L - W A L O

【ヴァル・ヴァロ／ジオン公国軍】

一年戦争末期にジオン公国軍が開発した MA-06 ヴァル・ヴァロは、それまでの MA 開発過程で蓄積された技術を意欲的に取り入れた機体である。多様な兵装による大火力に加え、MA-05 ビグロを凌駕する機動性を発揮した本機は、劣勢に追い込まれた公国軍の力となるはずであった。だが運用上の問題点から実戦投入は見送られ、フォン・ブラウンの最下層で眠りについていた本機は、デラーズ紛争の混乱の中、男たちの闘争心によって目覚めることになった。



①②③④大型メガ粒子砲や対空ビーム・ガンといったビーム系兵装とミサイル・ポッドなどの実体弾系兵装によってバランスの取れた火力を獲得している。さらに、広範囲の対象にダメージを与えることが可能なプラズマ・リーダーや、格闘用の大型クローも装備しており、この機体がジオン公国軍のモビルアーマーの系譜を継ぐ機体であることがわかる。⑤左腕を失ったケリィに合わせて操縦桿を1本に集約する等コクピットも改修されている。『機動戦士ガンダム 0083 STARDUST MEMORY』

Spec 全長：68.0m 本体重量：254.1t ジェネレーター出力：26,030kW スラスター推力：720,000kg 装甲材質：チタン・セラミック複合材 武装：大型メガ粒子砲／ミサイルポッド×2／プラズマ・リーダー×3／対空ビーム・ガン×2／110mm／90mm砲×4 搭乗者：ケリィ・レスナー

Illustration by Katsutoshi Tsunoda / Color by Hiroko Umezaki / Special effect by Kei Tsunematsu



GUNDAM FACT FILE MECHANIC ILLUSTRATIONS

FUTURE C  
AFTER C  
AFTER W  
CORRECT CE

〔収録作品〕『機動武闘伝Gガンダム』『新機動戦記ガン



Vol. 01

# 60 1955 001 2345 CENTURY LONNY AR NTURY

『機動新世紀ガンダムX』『Vガンダム』



# GF13-017NJ SHINING GUNDUM

【シャイニングガンダム／ネオジャパン】

キング・オブ・ハートの称号を持つガンダムファイター、ドモン・カッシュの愛機として、第13回ガンダムファイト（GF）に参加したのがこのシャイニングガンダムである。ガンダム開発局のミカムラ博士が開発に携わった本機は、必殺技「シャイニング・フィンガー」と、ドモンの感情をエネルギーに変換する「スーパーモード」によって多数の敵を撃破した。結果、11ヶ月間に及ぶGFの予選会サバイバルイレブンで好成績を取っている。



①②③シャイニングガンダムの必殺技、シャイニングフィンガー。液体金属を放出したマニピュレーターで敵機の頭部をつかみ、そのまま破壊してしまう。④ドモンの怒りをエネルギーに変換して発動するスーパーモードでは、最大出力により機体が金色に輝く。⑤コクピットはモビルトレースシステムの搭載によりリング状のパーツで構成される。攻撃のダメージなどはファイティングスーツを通してガンダムファイター自身にも伝わる。『機動武闘伝Gガンダム』

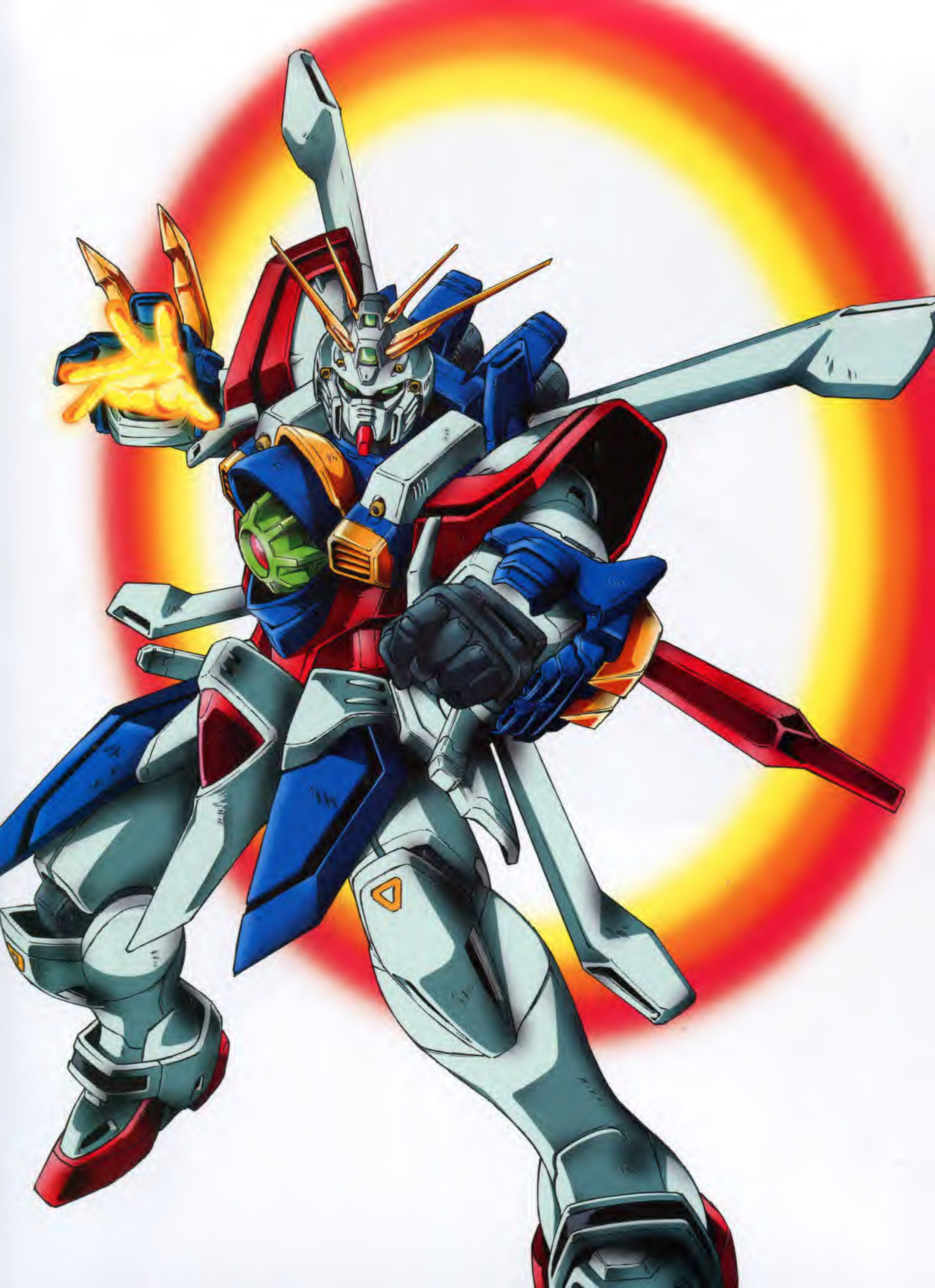
【Spec】 全高：16.2m 本体重量：6.8t ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：ガンダリウム合金スーパーセラミック複合材 武装：ビーム・ソード×2／頭部バルカン砲×2／マシンキャノン×2／機体弾 搭乗者：ドモン・カッシュ

Illustration by Kouji Sugiura / Special effect by Kouichi Iwanaga











# GF13-017NJ II GOD GUNDAM

【ゴッドガンダム／ネオジャパン】

ゴッドガンダムは、ネオジャパンが第13回ガンダムファイト（GF）の決勝大会用に開発したMFである。同大会の予選にネオジャパンが用いたシャイニングガンダムに比べ、攻撃力、防御力など全ての面でパワーアップしており、ガンダムファイターであるドモン・カッシュの格闘能力を最大限に引き出すことができた。その結果、本機はネオホンコンでの決勝大会を制し、名実共にガンダム・ザ・ガンダムとなったのである。



①②③ゴッドガンダムの必殺技、爆熱ゴッドフィンガー。シャイニングフィンガーを上回る破壊力を誇る。④⑤怒りの感情をエネルギーに変換するスーパーモードを改良したハイパーモードを搭載。怒りを拵て、明鏡止水の境地に達したドモンが発動させた。スーパーモード同様に機体は金色に輝き、より強力な必殺技「石破天驚ゴッドフィンガー」を放つ。『機動武闘伝Gガンダム』

〔Spec〕 頭頂高：16.6m 本体重量：7.5t ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：ガンダリウム合金スーパーセラミック複合材、レアメタル・ハイブリッド多層材 武装：頭部バルカン砲×4 ノマシンキャノン×2／ビームソード×2 搭乗者：ドモン・カッシュ

Illustration & Special effect by Hiroshi Ousaka / Color by Shihoko Nakayama







# G F 1 3 - 0 0 6 N A G U N D A M M A X T E R

【ガンダムマックスター／ネオアメリカ】

ネオアメリカに、超大国であったかつての栄光を取り戻す——そうした軍上層部の強い信念によって開発されたのが、第13回ガンダムファイト（GF）に投入されたガンダムマックスターである。コロニーボクシングでは無敵のチャンピオン、チボデー・クロケットをガンダムファイターとした本機は、彼のパンチ力とフットワークを活かした格闘戦仕様であり、肩部の装甲を腕部に設置するボクサー・モードによって多数のMFを撃破したのである。



①②胸部装甲を捨て、肩部装甲を両腕に装着することでボクサー・モードへと切り替わる。③ボクシングチャンピオンというガンダムファイターの資質から格闘型の機体と思われがちだが、ギガンティック・マグナムによる射撃も得意としていた。④⑤パンチを主体とした格闘スタイルから編み出した必殺技「豪熱マシンガンパンチ」は、一瞬のうちに数十発のパンチを繰り出し、そこから発生する衝撃波で射程外の敵機をも撃破した。『機動武闘伝Gガンダム』

[Spec] 頭頂高：16.3m 本体重量：7.3t ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：ガンダリウム合金スーパーセラミック複合材、レアメタル・ハイブリッド多層材 武装：ギガンティック・マグナム×2、フアイティングナックル×2、アーモナックル/シールド/顔部バズカン砲×2 搭乗者：チボデー・クロケット

Illustration by Kouji Sugiura / Color by Nagisa Abe / Special effect by Hirofumi Yagi(ASAHI PRODUCTION)





# G F I 3 - 0 1 1 N C D R A G O N G U N D A M

【ドラゴンガンダム／ネオチャイナ】

ネオチャイナ代表のガンダムファイター、サイ・サイシーの乗機として活躍したのが、格闘戦に優れたこのドラゴンガンダムである。サイシーが幼少から叩き込まれてきた少林寺拳法の動きを完全にトレースできた本機は、最終奥義であった「真・流星胡蝶剣」もそのまま反映できるなど、驚異的な運動能力で敵機を翻弄した。参加した第13回GF（ガンダムファイト）でも最終バトルロイヤルに進出、少林寺の名を世に知らしめた。



①②③「宝華教典・十絶陣」や「無影脚」など、少林寺拳法の技をガンダムファイトでも忠実に再現可能な格闘性能を発揮し、多彩な攻撃パターンで敵機を打倒してきた。中でも少林寺の最終奥義とされた「真・流星胡蝶剣」はハイパーモードとともに発動している。④両腕のドラゴンクローは伸縮自在で、竜の口部分からは火炎放射による攻撃が可能であった。⑤腕部と同様に頭部の弁髪刀も伸縮可能で、敵機を切り刻むことができた。『機動武闘伝Gガンダム』

【Spec】 頭頂高：16.4m 本体重量：7.4t ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：ガンダリウム合金スーパーセラミック複合材、レアメタル・ハイブリッド多層材 武装：フェイロンフラッグ×12／ドラゴンクロー×2／火炎放射器×2／弁髪刀／バルカン砲×2 搭乗者：サイ・サイシー

Illustration by Hiroshi Arisawa / Color by Nagisa Abe / Special effect by Hiroyuki Yagi(ASAHI PRODUCTION)







# GF13-009NF GUNDAM ROSE

【ガンダムローズ／ネオフランス】

ネオフランスに優勝という名の「革命」をもたらすために開発されたのが、ジョルジュ・ド・サンドが操る MF、ガンダムローズである。中世の騎士をモチーフとした優雅なフォルムを持つ本機は、装備した兵器や戦法すらも華麗なものであった。特に、バラ型の無線誘導兵器である「ローゼス・ビット」を用いた美しき必殺技「ローゼス・スクリーマー」や「ローゼス・ハリケーン」を駆使することで、他国の MF を多数撃破したのだった。



①②サーベル型の格闘用兵器、シュバリエ・サーベルは突き刺す動きに合わせた設計ではあるが、敵機を切り裂くだけの切れ味も併せ持つ。③④⑤近接格闘に優れるだけでなく、マント型の装甲に内蔵された無線誘導兵器ローゼス・ビットによる全方位攻撃も可能であった。必殺技に「ローゼス・スクリーマー」や「ローゼス・ハリケーン」などがある。さらにハイパーモードを発動すれば、攻撃力などあらゆる性能が飛躍的に向上したという。『機動武闘伝Gガンダム』

[Spec] 頭頂高：16.2m 本体重量：7.2t ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：ガンダリウム合金スーパーセラミック複合材、レアメタル・ハイブリッド多層材 武装：シュバリエ・サーベル／ローゼス・ビット（多数）／頭部バルカン砲×2 搭乗者：ジョルジュ・ド・サンド

Illustration & Special effect by Shino,Masanori / Color by Hiromi Miyawaki







# GF13-013NR BOLT GUNDAM

【ボルトガンダム／ネオロシア】

怪力が自慢の元宇宙海賊、アルゴ・ガルスキーをガンダムファイターとしたMFが、ネオロシア軍製のボルトガンダムである。アルゴの肉体をそのまま再現したかのような重厚なボディ、そしてその外観に劣らないパワーを有した本機は、肉弾戦において無類の強さを誇った。また、肩部に内蔵された鉄球を用いた「グラビトン・ハンマー」や、必殺技「炸裂ガイア・クラッシャー」によって、一撃で敵機を沈める高い決定力も有したのである。

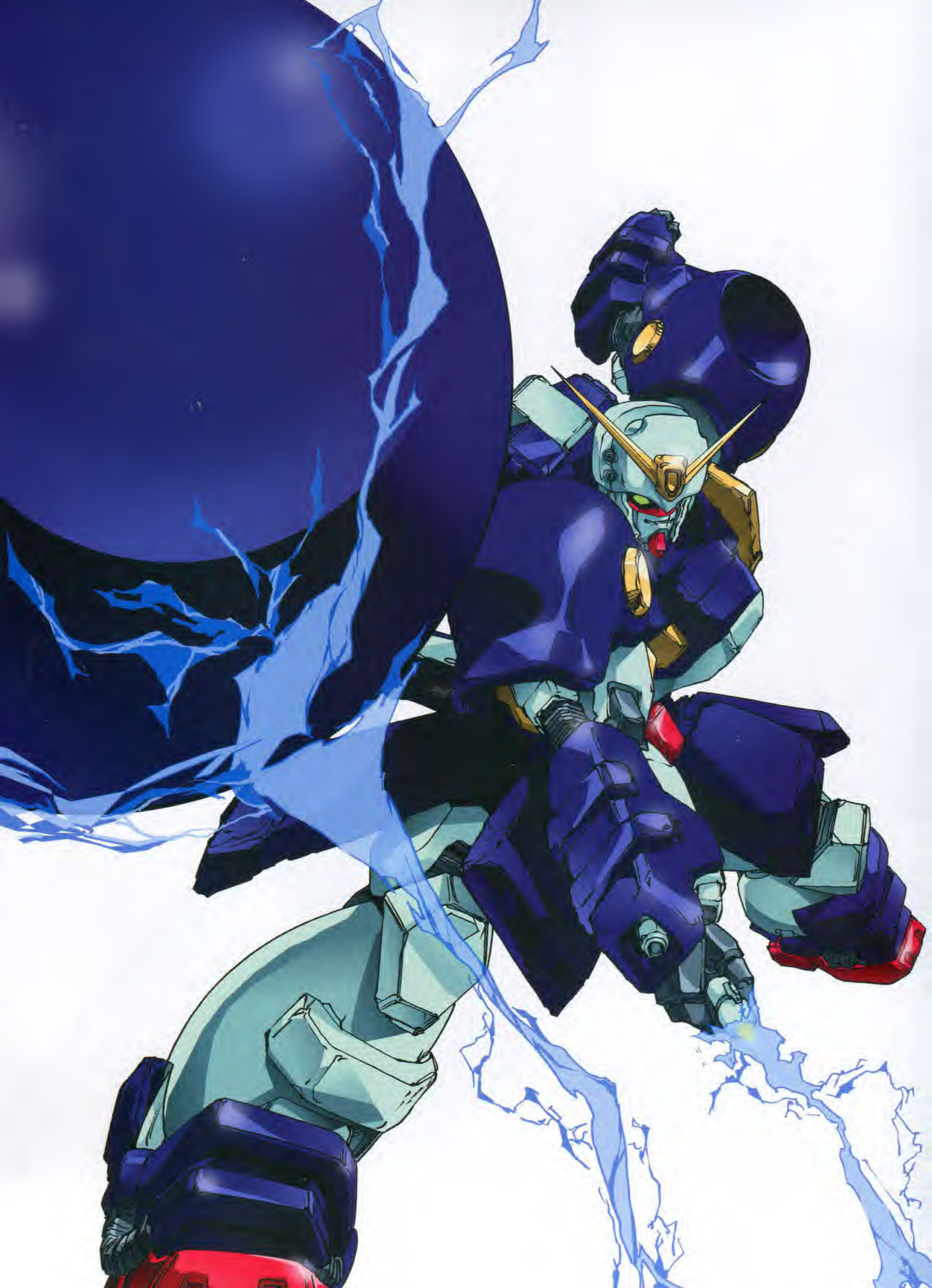


①②左肩に装備されたグラビトン・ハンマーはチェーン状に展開するビームで接続されており、遠心力を応用した投擲も可能であった。③④⑤圧倒的なパワーを生かした必殺技に、両拳を地面に打ちつけ、敵機ごと大地を割る「ガイア・クラッシャー」があった。ハイパーモード発動後は、格段にパワーアップした「炸裂ガイア・クラッシャー」を繰り出し、地球ごと全てを叩き割るような圧倒的破壊力で敵機を粉碎した。『機動武闘伝 Gガンダム』

[Spec] 頭頂高：17.3m 本体重量：8.9t ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：ガンダリウム合金スーパーセラミック複合材、レアメタル・ハイブリッド多層材 武装：グラビトン・ハンマー／バルカン砲×4 搭乗者：アルゴ・ガルスキー

Illustration by Atsushi Shigera / Color & Special effect by Yuki











# GF13-021NG GUNDAM SPIEGEL

【ガンダムシュピーゲル／ネオドイツ】

未来世紀（F.C.）60 に開催された第 13 回ガンダムファイト（GF）で、神出鬼没の機体として他国から恐れられていたのがガンダムシュピーゲルである。ゲルマン流忍術を会得するガンダムファイター、シュバルツ・ブルーダーの動きや忍術を正確に再現できた本機は、隠密行動や幻惑攻撃によって敵を混乱させ、数々の GF で勝利を得た。だが、ネオジャパンのゴッドガンダムとの全勝対決に敗れ、最終バトルロイヤルを前に敗退している。



①②③④⑤両腕に装備されたシュピーゲル・ブレードを展開しつつ機体を高速回転させる必殺技「シュトゥルム・ウント・ドランク」をはじめ、分身、隠形（おんぎょう）、変わり身など、ゲルマン流忍術を忠実に再現することが可能であった。装甲に光学迷彩の一種が施されるなど技術的な恩恵もあったものの、そのほとんどは搭乗者であるシュバルツ・ブルーダー自身の才能と、それを正確にトレースできる機体構造の優秀さによるものであった。『機動武闘伝 G ガンダム』

〔Spec〕 頭頂高：16.3m 本体重量：7.3t ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：ガンダリウム合金スーパーセラミック複合材、レアメタル・ハイブリッド多層材 武装：シュピーゲルブレード×2 / メッサーグランツ / アイアンネット 搭乗者：シュバルツ・ブルーダー

Illustration by Kouji Sugiura / Color by Nagisa Abe / Special effect by Hirofumi Yagi(ASAHI PRODUCTION)









# G F 1 3 - 0 0 1 N H II M A S T E R G U N D A M

【マスターガンダム／ネオホンコン】

第12回ガンダムファイト（GF）を制したガンダムファイター、マスター・アジア（東方不敗）の愛機として、第13回GFに登場したのがマスターガンダムである。地球全土を揺るがした悪魔の機体、デビルガンダムの組織体であるデビルガンダム（DG）細胞を採り入れたこのMFは、マスターの得意とする格闘技、流派“東方不敗”を完全に再現できた。この力を用い、マスターは地球環境を回復させるために人類抹殺を行なおうとしたのである。



①②③④⑤第12回大会で優勝したネオホンコン代表機。カーロンガンダムにデビルガンダム細胞を取り入れて誕生した機体。搭乗者であるマスター・アジアの使う拳法、流派「東方不敗」を完全に再現可能であり、さらに自己再生機能によるダメージの回復も可能であった。必殺技に「ダークネスフィンガー」、「超級覇王電影団」、「十二王方牌 大車併」などがあり、流派東方不敗最終奥義「石破天驚拳」では弟子のドモン・カッシュと張り合った。『機動武闘伝Gガンダム』

[Spec] 頭頂高：16.7m 本体重量：7.2t ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：不明 武装：マスタークロス/ディスタントクラッシャー/ニアクラッシャー 他 搭乗者：東方不敗マスター・アジア

Illustration by Kouji Sugiura / Color by Nagisa Abe / Special effect by Hirofumi Yagi(ASAHI PRODUCTION)







# X X X G - 0 0 W 0 W I N G G U N D A M Z E R O

【ウイングガンダムゼロ】

ウイングガンダムゼロは、5人の「G」開発者がOZ在籍時に設計し、15年後にカトル・ラバーバ・ウィナーが具現化した機体である。コロニーをも破壊するツインバスターライフルの装備や、高機動性を生むネオバード形態への変形、装甲にはガンダニウム合金の採用など、他機を凌駕する圧倒的な性能を誇った。その力が「G」チームによって運用されたことで、A.C.（アフター・コロニー）195のコロニー、地球間の戦乱は終結に至った。



①②③モビルスーツの携行火器としては規格外の破壊力を持つツインバスターライフル。同じ規格の銃が2丁重なった構造で、分離させることも可能だった。一点集中攻撃の他、両手に持つて回転させることで広範囲を破壊するなど、多彩な運用をしている。④ネオバード形態への変形が可能で、大気圏内での飛行性能の獲得、高速移動による一撃離脱戦法などを実現。⑤搭載されたゼロ・システムは、パイロットの肉体や精神にも影響を及ぼす。『新機動戦記ガンダムW』

【Spec】 頭頂高：16.7m 本体重量：8.0t ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：ガンダニウム合金 武装：ツインバスターライフル/ビームサーベル×2/ウイングバルカン×2/マシンガン×2/ウイングシールド 搭乗者：ヒイロ・ユイ他

Illustration & Special effect by Shino,Masanori / Color by Hiromi Miyawaki



# X X X G - 0 1 D 2 GUNDAM DEATHSCYTHE HELL

【ガンダムデスサイズヘル／ピースミリオン】

神出鬼没のMSとして、「見たものは死ぬ」というジンクスまで生み出した「G」が、ガンダムデスサイズヘルである。一度はOZに破壊されたガンダムデスサイズの改良型である本機は、宇宙用への調整のほか、ハイパージャマーやリブジャマーといったレーダー攪乱系の特殊兵器を強化し、隠密能力をさらに充実させていた。また、アクティブクロークの設置や兵器群の能力向上がなされたことで、より攻撃的なMSへと変貌を遂げたのである。



①②「死神」を強く印象づける主兵器であるツインビームサイズはMSをも一撃で破壊する。③黒衣を連想させる可動装甲、アクティブクロークは戦闘時には翼のように展開する。④左腕に装備されたバスターシールドはビーム刃と強力なクローを装備し、射出して使用もできる。⑤ハイパージャマーはより強化されており、レーダーへの隠密性が増している。『新機動戦記ガンダムW』

【Spec】 頭頂高：16.3m 本体重量：7.4t ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：ガンダニウム合金 武装：ツインビームサイズ／バスターシールド／バルカン×2／アクティブクローク／ハイパージャマー×2／リブジャマー 搭乗者：デュオ・マックスウェル

Illustration by Kouji Sugiura / Color by Hiroko Umezaki / Special effect by Kei Tsunematsu









# X X X G - 0 1 H 2 GUNDAM HEAVY ARMS CUSTOM

【ガンダムヘビーアームズ改】

トロワ・バートンが「オペレーション・メテオ」で用いたガンダムヘビーアームズに、宇宙戦用の改良を施したのが、このガンダムヘビーアームズ改である。バーニアの増設やバックパックの換装など、主に宇宙での機動力確保が図られた本機は、ビーム・ガトリングの追加によって攻撃力も高められていた。これにより、砲撃戦用MSとしての力を宇宙、地上でも遺憾なく発揮し、A.C.(アフター・コロニー) 195 の戦乱終結に貢献したのである。



①②主兵装となるビームガトリングは2連装へと強化され、火力は単純に倍増されている。エネルギー切れの際は左腕から分離してデッドウェイト化を避けることも可能。③④⑤機体各所に大小様々なミサイルが内蔵されるが、いずれも機体の機動性を損なうことのないように設計されている。主兵装となるビームガトリングの斉射と、内蔵火器の一斉発射による圧倒的火力をもってすれば、敵MS部隊の殲滅すらも容易であった。『新機動戦記ガンダム W』

【Spec】 全高：16.7m 本体重量：8.2t ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：ガンダニウム合金 武装：マシンキャノン×2 / 2連装ビームガトリング / ホーミングミサイル×6 / バルカン×2 / 胸部ガトリング砲×2 / マイクロミサイル×24 / アーミーナイフ 搭乗者：トロワ・バートン

Illustration by Katsutoshi Tsunoda / Color by Nagisa Abe / Special effect by Hirofumi Yagi(ASAHI PRODUCTION)











# X X X G - 0 1 S R 2 GUNDAM SANDROCK CUSTOM

【ガンダムサンドロック改】

ホワイトファンクと世界国家軍の戦闘に介入したピースミリオンに搭載された機体で、カトル・ラバーバ・ウィナーの乗機となったのがガンダムサンドロック改である。「オペレーション・メテオ」で運用されたガンダムサンドロックを改修した本機は、宇宙用の調整と兵器やバーニアの増設を施し、宙域での機動性と戦闘力を確保していた。また、ゼロ・システムを追加搭載して、「G」チームの指揮役としても活躍している。



①②近接格闘に偏った武装しが持たなかったサンドロックだが、改修に伴い新たにビーム・マシンガンを装備。複数の敵機への対応と中距離戦闘を有利に展開できるようになった。③④最大の特徴でもあるヒートシーテルは健在で、近接格闘戦では絶大な威力を誇った。⑤バックパックにバーニアが増設されたことで推力向上と機動性アップが図られたが、その反面、バックパックを応用するクロスランチャーは使用できなくなっている。『新機動戦記ガンダム W』

[Spec] 頭頂高：16.5m 本体重量：7.5t ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：ガンダニウム合金 武装：ヒートシーテル×2 / ホーミングミサイル×2 / バルカン×2 / シールドブラスター×2 / ビーム・マシンガン 搭乗者：カトル・ラバーバ・ウィナー

Illustration by Hiroshi Arisawa / Color by Nagisa Abe / Special effect by Hirofumi Yagi(ASAHI PRODUCTION)







# XXXG-01S2 ALTRON GUNDAM

【アルトロンガンダム】

アルトロンガンダムは、「オペレーション・メテオ」で地球に降下したシェンロンガンダムを、OZに拘束されていた5人の技術者が改修したMSである。宇宙戦に対応した機体調整だけでなく、ビームキャノンの設置やドラゴンハングの増設によって、圧倒的な格闘能力を獲得した。MO-II付近での戦いにも参加し、世界国家軍の指導者トレーズ・クシュリナーダが乗るトールギスIIを撃破するなど、イブウォーの終結にも大いに貢献している。



①②③右胸のみだったドラゴンハングを両胸に増設し、火炎放射の威力を強化している。格闘用の主兵器となるツインビームトライデントは三つ又のビーム刃を両端に形成することが可能であった。④⑤バックパック上面に設置された2連装ビームキャノンは柔軟な可動域を持ち、全方位への攻撃を可能とする。またバーニアを内蔵したランダムバインダーによって機動性も向上しており、宇宙空間においても格闘戦を有利に展開可能であった。『新機動戦記ガンダムW』

[Spec] 機体高：16.4m 本体重量：7.5t ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：ガンダニウム合金 武装：ドラゴンハング×2/ツインビームトライデント/2連装ビームキャノン/バルカン×2/シェンロンシールド 搭乗者：強五飛

Illustration by Katsutoshi Tsunoda / Color by Hiroko Umezaki / Special effect by Hirofumi Yagi(Asahi Production)









# O Z - 1 3 M S G U N D A M E P Y O N

【ガンダムエピオン／ホワイトファンク／OZ】

ガンダムエピオンはOZの総帥であったトレーズ・クシュリナーダが、トールギスや5機の「G」を参考にして開発したMSである。搭乗者の精神に作用するエピオン・システムの搭載や、格闘兵器だけの装備、飛行形態への変形など、トレーズの戦闘に対する美学が極限まで追求された機体となっていた。完成後、トレーズからヒイロ・ユイに託された本機は、のちにホワイトファンクの指導者となったゼクス・マークス（ミリアルド・ピースクラフト）へと渡され、大將機として活躍している。



①②③格闘用の武装を持たない決闘用MSとして開発された。トレーズ・クシュリナーダの美学を反映したため、圧倒的な機動性と攻撃力を持ちながら戦力のみを追求した機体ではない。主兵装となるビームソードは腰部で機体と接続されており、通常のビームサーベルよりも高い出力を維持できた。飛行形態への変形機構を持つが、凄まじい加速力は常人では制御不能と言われ、資格のある者にしか乗れない特別な機体であった。③ゼロ・システムと同様のエピオン・システムを搭載している。『新機動戦記ガンダムW』

〔Spec〕 頭頂高：17.4m 本体重量：8.5t ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：ガンダニウム合金 武装：ビームソード/ビートロッド/シールド/エピオンクロウ×2 搭乗者：ヒイロ・ユイ/ゼクス・マークス

Illustration by Seichi Nakatani / Color by Nagisa Abe / Special effect by Hirofumi Yagi(ASAHI PRODUCTION)







# G X - 9 9 0 0 G U N D A M X

【ガンダムX / フリーデン】

旧地球連邦軍が、宇宙革命軍との間に勃発した第7次宇宙戦争を終結させるべく投入したのが、このガンダムXである。決戦兵器と称された本機は、ニュータイプ専用開発されたもので、フラッシュシステムによってその特殊能力を軍事利用できる特徴を有していた。その結果、BitMSと呼ばれる無人MSの運用やサテライトシステムに対応したサテライトキャノンの使用を実現し、MS単機としては最高レベルの攻撃力を有したのである。



①②③本機最大の特徴でもあるサテライトキャノン。月のD.O.M.E.にあるマイクロウェーブ送信施設から送られるエネルギーを背部のリフレクターで受け取り、発射可能となる。このシステムの起動にはニュータイプが必要で、ガロードが搭乗した際はティファ・アティールがその役目を果たした。④⑤第7次宇宙戦争ではジャミル・ニートがサテライトキャノンを使用。複数のビットMSによる同時射撃は宇宙革命軍に壊滅的打撃を与えた。『機動新世紀ガンダムX』

[Spec] 頭頂高：17.1m 本体重量：7.5t ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：ルナ・チタニウム合金 武装：サテライトキャノン/シールドバスターライフル/大型ビームソード/ブレストバールガン×4/ショルダーバールガン 搭乗者：ガロード・ラン、ジャミル・ニート

Illustration / Color / Special effect by Junya Ishigaki







# G X - 9 9 0 1 - D X G U N D A M D O U B L E X

【ガンダム DX / フリーデン】

新地球連邦軍が、人工島ゾンダーエプタにある秘密基地で開発したのが、ガンダム DX(ダブルエックス)である。本機は、A.W.(アフター・ウォー)以前に開発されたガンダム X のコンセプトを踏襲しつつ、新しい時代の「決戦兵器」として製作が進んでいた。だが完成直後に機体をガロード・ランが強奪したことで、平和を望む「抑止力」としてその高い戦闘力を行使。第 8 次宇宙戦争を早期終結に導くこととなったのである。



①②バスターライフルやハイパービームソードなど、通常兵器としての武装はシンプルなものが多かった。③④ガンダム X のサテライトキャノンにさらに強化したツインサテライトキャノンを搭載する。高出力化に伴い、機体背面のマイクロウェーブ受信パネルは 6 枚に増設されている。さらに高エネルギー消費による排熱量の増加に対応するため、機体各部にエネルギーラジエタープレートを設置。射撃後はこれが展開して放熱処理を行う。『機動新世紀ガンダム X』

【Spec】 頭頂高：17.0m 本体重量：7.8t ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：ルナ・チタニウム合金 武装：ツインサテライトキャノン、DX 専用バスターライフル、ハイパービームソード×2、プレストランチャー×4、ヘッドバルカン×2、ディフェンスプレート 搭乗者：ガロード・ラン

Illustration / Color / Special effect by Junya Ishigaki







# N R X - 0 0 1 3 - C B GUNDAM VIRSAGO CHEST BREAK

【ガンダムヴァサーゴ チェストブレイク / 新地球連邦軍】

ガンダムヴァサーゴ チェストブレイクは、新地球連邦軍と宇宙革命軍の間で勃発した第8次宇宙戦争に参加した機体である。新連邦軍の前身組織、政府再建委員会が開発したガンダムヴァサーゴの改修機で、戦闘能力を中心にあらゆる機能が強化されていた。また、共に行動する機会が多かったガンダムアシュタロン ハーミットクラブとの連携機構を新たに獲得しており、2機が連結することでサテライトランチャーの使用が可能となったのである。



①②③機体改修における最大の変更点が、胴体中央部分に内蔵されるトリプルメガソニック砲の新設である。メガソニック砲3基を胴体に無理矢理内蔵しており、これの発射の際には胸部装甲を展開したうえに胴体や腕部を伸縮させる必要があった。④⑤機体背面にはマイクロウェーブの受信も可能な放熱フィンを装備。これにより、アシュタロン ハーミットクラブが装備するサテライトランチャーにエネルギーを供給することができた。『機動新世紀ガンダムX』

【Spec】 頭頂高：17.8m 本体重量：8.3t ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：不明 武器：トリプルメガソニック砲/ビームサーベル/ストライクロー×2/クロービーム砲×2 搭乗者：シャギア・フロスト

Illustration by Atsushi Shigeta / Color & Special effect by Yuki





# NRX-0015-HC GUNDAM ASHTARON HERMIT CLUB

【ガンダムアシュタロン ハーミットクラブ／新地球連邦軍】

フロスト兄弟の双子の弟、オルバ・フロストが操ったガンダムアシュタロンを、第8次宇宙戦争に備えて全面改修したのがこのガンダムアシュタロン ハーミットクラブである。本機は変形機構「トランスシステム」に対応したバックパックがより大型のものに変更され、攻撃力、推進力共に向上していた。さらに兄シャギアが操るガンダムヴァサーゴ チェストブレイクとの連携能力を高めるため、サテライトランチャーの設置も可能となった。



①②③機体背面の大型バックパックは変形機構「トランスシステム」の主要なパーツであり、さらに推力機関と武装（ギガンティックシザーズ）も兼ねていた。④⑤モビルアーマー形態におけるオプション兵装として、圧倒的破壊力を誇るサテライトランチャーも装備可能だった。これはマイクロウェーブを受信したヴァサーゴチェストブレイクからエネルギー供給を受ける設計となっており、運用には2機の緊密な連携が大前提となっていた。『機動新世紀ガンダムX』

[Spec] 全高：19.5m 本体重量：12t シェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：不明 武装：ギガンティックシザーズ×2 / シザーズビームキャノン×2 / マシンガン×2 / ビームサーベル×2 / サテライトランチャー 開発者：オルバ・フロスト

Illustration by Kouji Sugiura / Color by Nagisa Abe / Special effect by Hitofumi Yagi(ASAHI PRODUCTION)







# SYSTEM - V99 V GUNDAM

【Vガンダム／イングレッサ・ミリシャ】

古代の歴史を黒く塗り潰したMS、SYSTEM-V99 Vガンダム。この白い機械人形がもたらしたものは愚かな人間への断罪だったのかもしれない。ナノマシンを大量に散布する「月光蝶」はその発現であり、本機のために備えられたシステムである。その力をもって過去を忘却の彼方に押しやったVガンダムだが、ムーンレイスの地球帰還に端を発する争乱において、再びその虹色の翅を広げることになったのだった。



①②③ホワイトドールの像から出現した際に持っていたビームライフルは、初弾発射後に自壊してしまった。後に発掘された同型ライフルの他、推進用モーターを内蔵するガンダムハンマーの他、専用とみられるシールドも発見されている。④⑤使用頻度が高かったビームサーベルは敵機への斬撃だけでなく、サーベルを持った手を高速回転させることで一種のビームバリアとしても機能させることができた。『Vガンダム』

【Spec】 頭頂高：20.0m 本体重量：28.6t ジェネレーター出力：27,000kW（±5,000kW） スラスター推力：不明 装甲材質：FE型 武装：胸部マルチバーブサイロ／ビームライフル／シールド／ガンダムハンマー／ビームサーベル×2／腹部ビームキャノン／月光蝶 搭乗者：ロラン・セアック

Illustration by Atsushi Shigeta / Color and Special effect by Yuki







# SYSTEM - V99 V GUNDAM

【V ガンダム / イングレッサ・ミリシャ】

C.C.（正暦）以前の世界を封印したとされる SYSTEM-V99 V（ターンエー）ガンダムは、ビシニティ地方の遺跡にある神像「ホワイトドール」の中から姿を現した。システムVという包括的な軍事構想の実証機であったと言われる本機は、月製のMSを遥かに凌駕する性能を有したほか、大量のナノマシンを散布する文明破壊システム「月光蝶」の発動が可能であった。機体はWD-M01の型式番号が与えられると共にイングレッサ・ミリシャの主力機として運用され、地球側の戦力を大きく支えた。



①②③④Vガンダムは、すでに「黒歴史」として失われた遠い過去の世界において、人類の歴史に終焉をもたらした「月光蝶システム」を搭載している。これが発動されると、機体背面に蝶の羽に似たオーロラ状のフィールドが形成される。羽は大量のナノマシンで形成されており、このナノマシンは接触したすべての物質を土に分解する能力を持っていた。このようなシステムが本機に搭載された目的は不明だが、一説には地球外から襲来する未知の敵との戦闘を想定した兵器とも言われる。『Vガンダム』

【Spec】 頭頂高：20.0m 本体重量：28.6t ジェネレーター出力：27,000kW（± 5,000kW）スラスター推力：不明 装甲材質：FE型 武装：胸部マルチバースサイロ/ビームライフル/シールド/ガンダムハンマー/ビームサーベル×2/腹部ビームキャノン/月光蝶 搭乗者：ロラン・セアック

Illustration by Atsushi Shigeta Color and Special effect by Yuki











# M R C - F 2 0   S U M O   G O L D   T Y P E

【スモー（ゴールドタイプ）／ディアナ・カウンター】

スモーは、ムーンレイスが製作した最新鋭 MS で、Strike Unit for Maneuver Operation（機動戦闘ユニット）との正式名称を持つ機体である。IFBD（Iフィールド・ビーム・ドライブ）駆動による高い運動性能、近接戦闘への優れた対応力を有し、月の女王ディアナ・ソレルを守るディアナ親衛隊で運用された。また、「黒歴史」以前に誕生したとされる伝説の MS、V（ターンエー）ガンダムとの類似性も指摘されている。



①②③④ディアナ・カウンターの MS で唯一 IFBD（Iフィールド・ビーム・ドライブ）と呼ばれる駆動システムを持つ。Iフィールド技術は武装にも応用され、左腕に装備される Iフィールド・ジェネレーターは攻守ともに利用できる特殊兵装である。他にもビーム・ガンやヒート・ファンなどを装備するが、いずれも小型で機体の運動性能を犠牲にすることがないように工夫されているようである。⑤腹部に設置されたコクピットはなぜか地球で発掘されたVガンダムと共通規格であったが、スモーのものは幾分簡略化されているようだ。『Vガンダム』

〔Spec〕 頭頂高：20.3m 本体重量：34.2t ジェネレーター出力：34,000 ± 5,000kW（推定）スラスター推力：不明 装甲材質：MFE ガンディウム EGI 複合材 武装：ビーム・ガン／ヒート・ファン／Iフィールド・ジェネレーター 他 搭乗者：ハリー・オード

Illustration by Atsushi Shigeta / Color & Special effect by Yuki



# CONCEPT - X 6 - 1 - 2 (PROJECT-6 DIVISION-1 BLOCK - 2 ) TURN X

【ターンX / ギンガナム艦隊】

ギンガナム艦隊の司令官でありギンガナム家当主であるギム・ギンガナムが、最終兵器として用いたMSがこのターンXである。月のマウンテンサイクルから発掘された本機は、幾度かの改修を行った形跡があり、その影響からか左右非対称の特異なフォルムを有していた。また、頭部や胸部、脚部などの各パーツがひとつの攻撃兵器として機能しており、すべてのパーツを分離してオールレンジ攻撃を仕掛ける「ブラディシージ」を駆使し、数々のMSを撃破している。



1 2 3 4 5 6月のマウンテンサイクルで発掘されたターンXはその出自に不明点が多く、マガンダムとともに地球や月で発掘される他のMSとは一線を画す機体である。一説には黒歴史以前に木星付近で開発され、何らかの理由で月面に落着いたのではないかともしられる。ギンガナム艦隊が発見した際にはすでに幾度かの改修が加えられており、機体はすでに左右非対称の形状となっていた。機体を9個のパーツに分離させ、それぞれ単独で攻撃を仕掛けるブラディシージやシャイニング・フィンガーなどの特殊攻撃を可能とし、最終的には月光蝶までも繰り出してマガンダムと死闘を繰り広げた。『マガンダム』

[Spec] 頭部高：20.5m 本体重量：50.6t シェネレーター出力：68,000kW (± 5,000 ~ 500,000 以上) スラスター推力：不明 装甲材質：不明 武器：背部ウェポンプラットフォーム (キャリバス) / 3連装ビーム投射ライフル / 溶断破壊マニピュレーター / 脚部メガ粒子砲×2他 搭乗者：ギム・ギンガナム

Illustration by Atsushi Shigeta / Color & Special effect by Yuki









GUNDAM FACT FILE MECHANIC ILLUSTRATIONS

# THE OFFICIAL ANIMATION

週刊 オフィシャル サンライズ

サンライズ創業30周年を記念して企画されたパートワーク。全サンライズ作品を網羅しつつ、人気のロボットアニメや代表的なSF作品などを詳細に解説。毎号描き下ろしイラストによる豪華ピンナップの他、ガンダムプレミアムファイルとして3DCG



Vol. 01

# ALL SUNRISE DATA FILE

アニメーションデータファイル

による描き下ろしイラストやキャラクターデザイナーによる描き下ろしイラスト、インタビュー記事などが掲載されていた。ここからは、本誌内のガンダムプレミアムファイルに掲載されたイラストに加え、未公開イラストを掲載している。





07.YAS





'07. YAS.







































【迫撃！ トリ

「機

3D MODELING by ATELIER SAI / CG ART by SHI  
FINISH WORK by TOMO







【要】

ATELIER SAI / CG ART by KENICHI SUZUKI  
TOMOAKI OKADA





































【黒い

【7500W

3D MODELING by ATELIER SAI / CG ART by YU

FINISH WORK by TOMO







【キリマンジロ】

機動戦艦

3D MODELING by ATELIER SAI / CG ART by SHI

FINISH WORK by TOMO





























































# GUNDAM FACT FILE MECHANIC ILLUSTRATIONS Vol.01

【ガンダム・ファクトファイル表紙全集】

## C O V E R C O L L E C T I O N

RX-75  
GUNTANK  
p.008-009

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第29号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：仲盛文



RX-77-2  
GUNCANNON  
p.010-011

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第9号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：仲盛文



RX-78-2  
GUNDAM  
p.012-013

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル創刊号  
表紙：週刊ガンダム・ファクトファイル総索引号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：板雅律



RX-78-2  
GUNDAM  
p.014-015

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第150号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：重田敦司



G ARMOR  
p.016-017

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第63号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：重田敦司



RGM-79  
GM  
p.018-019

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第57号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：重田敦司



MS-05B  
ZAKU I  
p.020-021

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第52号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：杉浦幸次







MS-06F  
ZAKU II  
p.022-023

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第18号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：筱雅律



MS-06S ZAKU II  
CHAR'S CUSTOM  
p.024-025

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第2号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：筱雅律



MS-07B  
GOUF  
p.026-027

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第3号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：仲盛文



MS-09  
DOM  
p.028-029

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第4号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：重田敦司



MSM-03  
GOGG  
p.030-031

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第97号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：重田敦司



MSM-04  
ACGUY  
p.032-033

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第64号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：筱雅律



MSM-07S Z'GOK  
CHAR'S CUSTOM  
p.034-035

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第6号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：仲盛文



YMS-15  
GYAN  
p.036-037

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第22号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：重田敦司



YMS-14 GELGOOG  
CHAR'S CUSTOM  
p.038-039

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第23号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：重田敦司



MSN-02  
ZEONG  
p.040-041

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第43号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：篠雅律



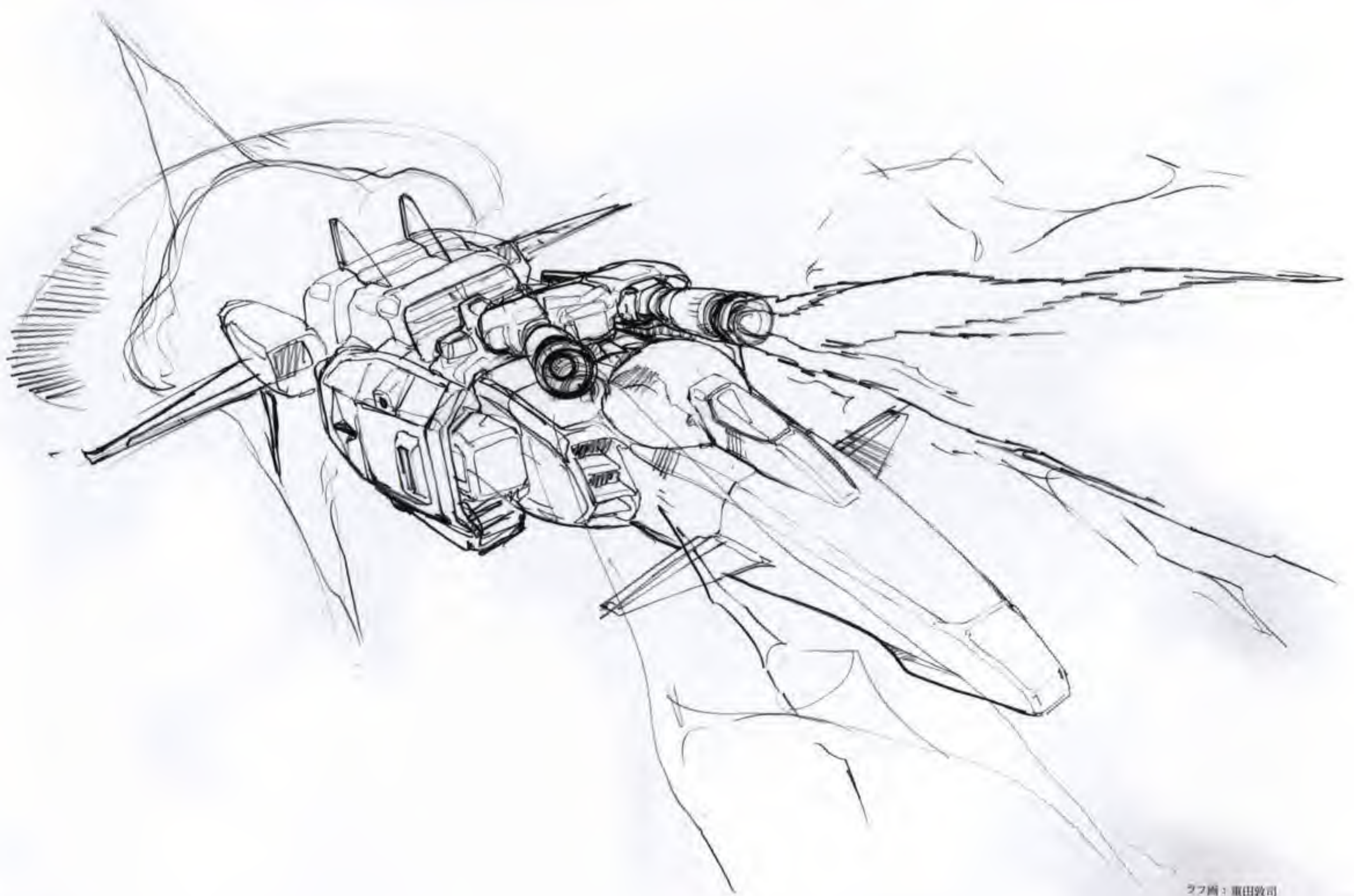
MA-05  
BIGRO  
p.042-043

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第83号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：津野田勝敏



MA-04X  
ZAKRELLO  
p.044-045

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第53号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：中谷誠一







## RX-79[G] GUNDAM GROUND TYPE

p.054-055

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第33号  
登場作品：『機動戦士ガンダム 第08MS小隊』  
イラスト：筱雅律



## RX-79[G]Ez-8 GUNDAM Ez8

p.056-057

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第60号  
登場作品：『機動戦士ガンダム 第08MS小隊』  
イラスト：杉浦幸次



## MS-07B-3 GOUF CUSTOM

p.058-059

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第61号  
登場作品：『機動戦士ガンダム 第08MS小隊』  
イラスト：杉浦幸次



## APSARUS III

p.060-061

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第37号  
登場作品：『機動戦士ガンダム 第08MS小隊』  
イラスト：仲盛文



## MA-03 ADZAM

p.046-047

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第95号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：中谷誠一



## MA-08 BIG-ZAM

p.048-049

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第25号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：仲盛文



## MAN-03 BRAW-BRO

p.050-051

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第72号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：重田敦司



## MAN-08 ELMETH

p.052-053

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第19号  
登場作品：『機動戦士ガンダム』  
イラスト：重田敦司



RX-78NT-1  
ALEX  
p.062-063



初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第41号  
登場作品：『機動戦士ガンダム 0080 ポケットの中の戦争』  
イラスト：杉浦幸次

MS-06FZ  
ZAKU II FZ  
p.064-065



初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第42号  
登場作品：『機動戦士ガンダム 0080 ポケットの中の戦争』  
イラスト：仲 盛文

MS-18E  
KÄMPFER  
p.066-067



初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第24号  
登場作品：『機動戦士ガンダム 0080 ポケットの中の戦争』  
イラスト：森 雅幸

YMT-05  
HILDOLFR  
p.068-069



初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第89号  
登場作品：『機動戦士ガンダム MS IGLOO  
～1年戦争秘録～』  
CGイラスト：サンライズデジタル制作部

EMS-10  
ZUDAH  
p.070-071



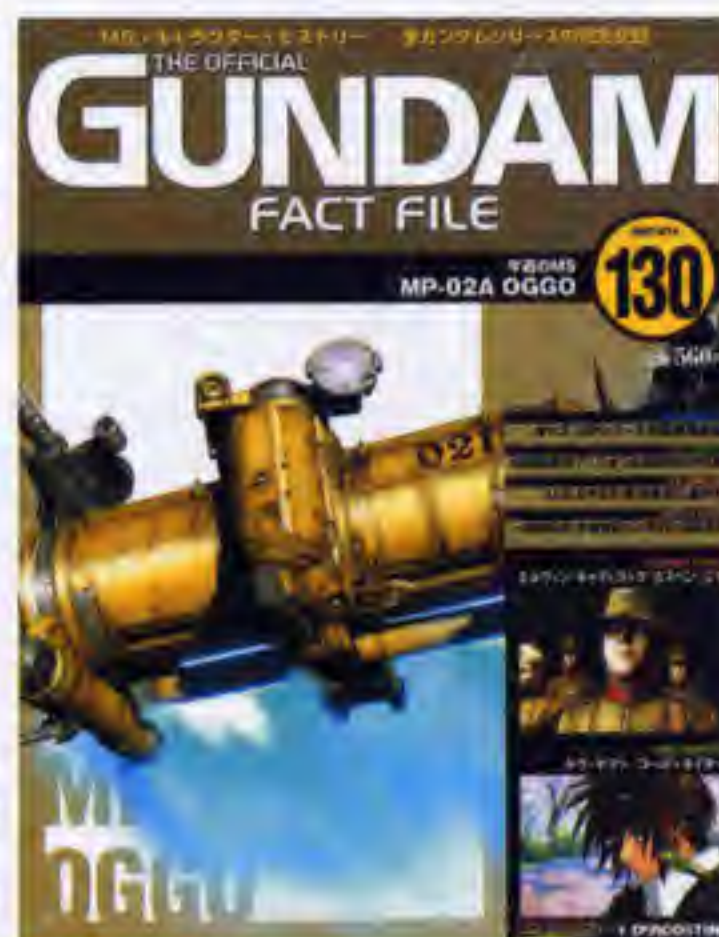
初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第75号  
登場作品：『機動戦士ガンダム MS IGLOO  
～1年戦争秘録～』  
CGイラスト：サンライズデジタル制作部

MSM-07Di  
Ze'GOK  
p.072-073



初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第124号  
登場作品：『機動戦士ガンダム MS IGLOO  
～黙示録 0079～』  
CGイラスト：サンライズデジタル制作部

MP-02A  
OGGO  
p.074-075



初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第130号  
登場作品：『機動戦士ガンダム MS IGLOO  
～1年戦争秘録～』  
CGイラスト：サンライズデジタル制作部

MA-05Ad  
BIG-RANG  
p.076-077



初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第134号  
登場作品：『機動戦士ガンダム MS IGLOO  
～1年戦争秘録～』  
CGイラスト：サンライズデジタル制作部





# RX-78 GP01 GUNDAM GP01

p.078-079

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第10号  
登場作品：『機動戦士ガンダム 0083  
STARDUST MEMORY』  
イラスト：仲盛文



# RX-78 GP01Fb FULLBURNER

p.080-081

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第85号  
登場作品：『機動戦士ガンダム 0083  
STARDUST MEMORY』  
イラスト：中谷誠一



# RX-78 GP02A GUNDAM GP02

p.082-083

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第11号  
登場作品：『機動戦士ガンダム 0083  
STARDUST MEMORY』  
イラスト：飯塚雅彦



# RX-78 GP03 DENDROBIUM

p.084-085

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第120号  
登場作品：『機動戦士ガンダム 0083  
STARDUST MEMORY』  
イラスト：重田敦司





RGM-79N  
GM CUSTOM  
p.086-087

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第31号  
登場作品：『機動戦士ガンダム0083  
STARDUST MEMORY』  
イラスト：杉浦幸次



YMS-16  
XAMEL  
p.088-089

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第44号  
登場作品：『機動戦士ガンダム0083  
STARDUST MEMORY』  
イラスト：杉浦幸次



AMA-X2  
NEUE ZIEL  
p.090-091

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第62号  
登場作品：『機動戦士ガンダム0083  
STARDUST MEMORY』  
イラスト：仲盛文



AGX-04  
GERBERA-TETRA  
p.092-093

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第65号  
登場作品：『機動戦士ガンダム0083  
STARDUST MEMORY』  
イラスト：津野田勝敏



MA-06  
VAL-WALO  
p.094-095

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第71号  
登場作品：『機動戦士ガンダム0083  
STARDUST MEMORY』  
イラスト：津野田勝敏



GF13-017NJ  
SHINING GUNDAM  
p.098-099

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第101号  
登場作品：『機動武闘伝Gガンダム』  
イラスト：杉浦幸次



GF13-017NJ II  
GOD GUNDAM  
p.100-101

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第80号  
登場作品：『機動武闘伝Gガンダム』  
イラスト：逢坂浩司



GF13-006NA  
GUNDAM MAXTER  
p.102-103

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第107号  
登場作品：『機動武闘伝Gガンダム』  
イラスト：杉浦幸次







**GF13-011NC  
DRAGON GUNDAM**  
p.104-105

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第141号  
登場作品：『機動武闘伝Gガンダム』  
イラスト：有澤 寛



**GF13-009NF  
GUNDAM ROSE**  
p.106-107

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第119号  
登場作品：『機動武闘伝Gガンダム』  
イラスト：飯 雅律



**GF13-013NR  
BOLT GUNDAM**  
p.108-109

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第125号  
登場作品：『機動武闘伝Gガンダム』  
イラスト：重田敦司



**GF13-021NG  
GUNDAM SPIEGEL**  
p.110-111

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第111号  
登場作品：『機動武闘伝Gガンダム』  
イラスト：杉浦幸次



**GF13-001NH II  
MASTER GUNDAM**  
p.112-113

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第96号  
登場作品：『機動武闘伝Gガンダム』  
イラスト：杉浦幸次



**XXXG-00W0  
WING GUNDAM ZERO**  
p.114-115

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第84号  
登場作品：『新機動戦記ガンダムW』  
イラスト：飯 雅律



**XXXG-01D2  
GUNDAM  
DEATHSCYTHE**  
p.116-117

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第121号  
登場作品：『新機動戦記ガンダムW』  
イラスト：杉浦幸次



**XXXG-01H2  
GUNDAM HEAVY  
ARMS CUSTOM**  
p.118-119

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第103号  
登場作品：『新機動戦記ガンダムW』  
イラスト：津野田勝敏



XXXG-01SR2  
GUNDAM SANDROCK  
CUSTOM  
p.120-121



初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第131号  
登場作品：『新機動戦記ガンダム W』  
イラスト：有澤寛

XXXG-01S2  
ALTRON GUNDAM  
p.122-123



初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第92号  
登場作品：『新機動戦記ガンダム W』  
イラスト：津野田勝敏

OZ-13MS  
GUNDAM EPYON  
p.124-125



初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第98号  
登場作品：『新機動戦記ガンダム W』  
イラスト：中谷誠一

GX-9900  
GUNDAM X  
p.126-127



初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第94号  
登場作品：『機動新世纪ガンダム X』  
イラスト：石垣純哉

GX-9901-DX  
GUNDAM DOUBLE X  
p.128-129



初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第82号  
登場作品：『機動新世纪ガンダム X』  
イラスト：石垣純哉

NRX-0013-CB  
GUNDAM VIRSAGO  
CHEST BREAK  
p.130-131



初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第115号  
登場作品：『機動新世纪ガンダム X』  
イラスト：重田敦司

NRX-0015-HC  
GUNDAM ASHTARON  
HERMITCRAB  
p.132-133



初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第137号  
登場作品：『機動新世纪ガンダム X』  
イラスト：杉浦幸次

SYSTEM-V99  
V GUNDAM  
p.134-135 / p.136-137



初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第76号  
登場作品：『Vガンダム』  
イラスト：重田敦司





## MRC-F20 SUMO (GOLD TYPE)

p.138-139

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第88号  
登場作品：『Vガンダム』  
イラスト：重田敦司



## CONCEPT-X 6-1-2 TURN X

p.140-141

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第145号  
登場作品：『Vガンダム』  
イラスト：重田敦司

### 週刊オフィシャル・サンライズアニメーションデータファイル 創刊号

- p.145 シアア・アズナブル / イラスト：安彦良和  
p.152 大気圏突入 / 3Dモデリング：アトリエ彩、CGアート：堀井慎也、仕上げ：岡田有章

### 週刊オフィシャル・サンライズアニメーションデータファイル 第2号

- p.144 アムロ・レイ / イラスト：安彦良和  
p.156 コンスコン強襲 / 3Dモデリング：アトリエ彩、CGアート：鈴木健一、仕上げ：岡田有章

### 週刊オフィシャル・サンライズアニメーションデータファイル 第3号

- p.148 カミーユ・ビダン / イラスト：北爪宏幸  
p.168 宇宙を駆け抜ける / 3Dモデリング：アトリエ彩、CGアート：大川威、仕上げ：岡田有章

### 週刊オフィシャル・サンライズアニメーションデータファイル 第4号

- p.150 キラ・ヤマト & アスラン・ザラ (機動戦士ガンダムSEED) / イラスト：平井久司  
p.152 サイレントラン / 3Dモデリング：アトリエ彩、CGアート：鈴木健一、仕上げ：岡田有章

### 週刊オフィシャル・サンライズアニメーションデータファイル 第5号

- p.147 アナベル・ガトー / イラスト：川元利浩  
p.162 駆け抜ける嵐 / 3Dモデリング：アトリエ彩、CGアート：堀井慎也、仕上げ：岡田有章

### 週刊オフィシャル・サンライズアニメーションデータファイル 第6号

- p.149 クワトロ・バジーナ / イラスト：北爪宏幸  
p.166 キリマンジャロの嵐 / 3Dモデリング：アトリエ彩、CGアート：堀井慎也、仕上げ：岡田有章

### 週刊オフィシャル・サンライズアニメーションデータファイル 第7号

- p.146 クリス & バーニィ / イラスト：美樹本晴彦  
p.158 ポケットの中の戦争 / 3Dモデリング：アトリエ彩、CGアート：大川威、仕上げ：岡田有章

### 週刊オフィシャル・サンライズアニメーションデータファイル 第8号

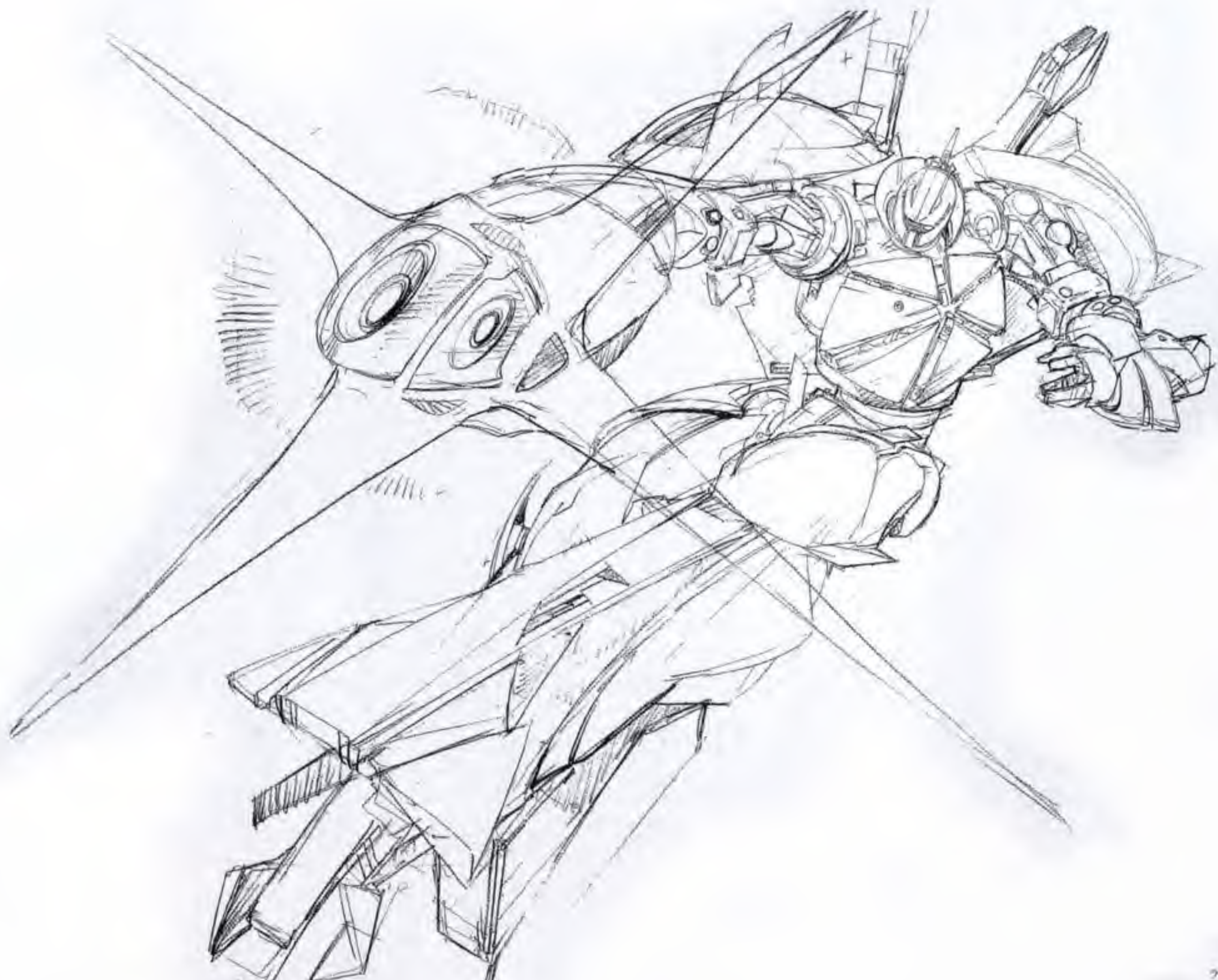
- p.154 追撃！トリプル・ドム / 3Dモデリング：アトリエ彩、CGアート：堀井慎也、仕上げ：岡田有章

### 週刊オフィシャル・サンライズアニメーションデータファイル 第9号

- p.172 アタシズの戦い / 3Dモデリング：アトリエ彩、CGアート：野間裕介、仕上げ：岡田有章

### 週刊オフィシャル・サンライズアニメーションデータファイル 第10号

- p.160 テキサスの攻防 / 3Dモデリング：アトリエ彩、CGアート：吉間裕司、仕上げ：岡田有章





# GUNDAM FACT FILE

## MECHANIC ILLUSTRATIONS Vol. 01

### ガンダム・ファクトファイル メカニックイラストレーションズ Vol.1

2014 年 2 月 18 日発行 初版第 1 刷発行

発行所／株式会社デアゴスティーニ・ジャパン

〒104-6205 / 東京都中央区晴海 1-8-12 トリトンオフィスタワー Z

発行人／小河原和世

プロダクトマネージャー／川口晋吾

アートディレクター／今福健司

©2014 KK DeAgostini Japan All Rights Reserved.

監 修／株式会社サンライズ

編集協力・デザイン／MEGALOMANIA

製 版／株式会社大丸グラフィックス

印 刷／図書印刷株式会社

© 創通・サンライズ

※本誌は 2004 年 9 月 21 日より 2007 年 9 月 4 日まで刊行していた『週刊 ガンダム・ファクトファイル』の一部を再編集したものです。

※お客様サポートセンター（本誌関連の一般的な質問を承ります）TEL.0570-008-109（月～金 10：00～18：00 土日祝日除く）

※ お客様受注センター ☎0120-300-851（9：00～21：00 年末年始を除く）

『ガンダム・ファクトファイル メカニックイラストレーションズ』は、最寄りの書店でご注文ください。なお、書店に在庫がない場合には、直送（別途送料要、代引き）のご注文も承っております。上記お客様受注センターまでお問い合わせください。

本誌の記事・絵画等を無断で複写（コピー）、転載することを禁じます。乱丁、落丁はお取替えいたします。